



世界 400 地区以上の共同プロジェクト

2022 - 23

卒後コース

卒後コースについて

RLI 日本支部 カリキュラム委員会
2021-2023 年度 副委員長 井原 實

RLI の研修に参加して頂いて有難うございました。

ご承知のように、RLI は以下の 3 コースを提供しています。

パート 1 : ロータリアンとしての私

パート 2 : 私達のクラブ

パート 3 : 私のロータリーの旅

皆様は RLI の研修 (ディスカッション) を通じて、ロータリークラブの会員としての立場、会長としてクラブを管理運営する立場、クラブ会長を終えられて更に深くロータリーの旅を楽しんでいる立場で、広くロータリーを眺め、考えて来られました。

また、カリキュラムの中では、

- ① ロータリーの基礎
- ② 奉仕と財団
- ③ 倫理と職業
- ④ リーダーシップ
- ⑤ コミュニケーション
- ⑥ 会員基盤

について、学ばれて来られ、RLI の研修を修了されました。

RLI 委員会では、皆様が、更にロータリアンとしての成長とロータリー観を深める一助になれる事を願って、卒後コースを設けております。

現在、RLI の研修を実施されている地区に、卒後コースの実施をお尋ねしたところ、実施されている地区は少なく、また、実施についても会長エレクト研修セミナー (PETS) の中で行っている地区、ガバナー補佐の研修会の中で行っている地区が有りました。

カリキュラム委員会では、卒後コースを地区の RLI 研修の実態に合わせて利用できるように、以下のセッションを用意しました。セッションは RLI 本部作成したテキスト、RLI に参加している海外の地区が作成したテキストを参考に、RLI 日本支部カリキュラム委員会を中心に RLI 日本支部独自のテキスト (セッション) を作成しました。各セッションの資料も出来るだけ簡潔に、テキスト作成時点で最新のものを選択、作成し挿入しました。資料が不足と感じるセッションはパート I~III の資料を適宜補足的にお使い下さい。

- ① ロータリーの歴史
- ② ロータリーの理念 (ロータリー理念のルーツを探る)
- ③ ロータリーの新しい流れ (RI の行動計画、財団の補助金、DEI、RAC、SFR)
- ④ クラブを元気にしよう (クラブ活性化の手順)

卒後コースは上記のセッションの中から地区 RLI 委員会がコースを選択して実施して下さい。実施時期はパート III の直後に実施する、PETS に合わせて PETS の補足として実施する、ガバナー補佐研修会に実施するなど、地区の事情に合わせて実施して下さい。あるいは、

地区 RLI 委員会で①～③を分解し、自由に組み合わせて独自の RLI 研修プログラムを作成して頂いても良いと思います。

セッションの間の 1 つ 1 つは中味が濃く、ロータリーの目的の変遷、決議 23-34 を巡る歴史など、通常の RLI の 1 セッションではディスカッションが終わらないような問が多く含まれています。ディスカッションへ参加する人数を 6 名以下に制限する、ディスカッションの時間を延ばして深く、充実したディスカッションをするのも 1 つの方法です。RLI のパート 1～3 を終了された皆様は RLI の楽しみ方を学ばれました、各問いを組み合わせ新たな卒後コースで、RLI を更に深め、楽しんで下さい。

カリキュラム委員会は RLI の参加者がディスカッションを通じて、より深くロータリーを知るための素材を提供したに過ぎません。

ロータリーはロータリアンが活発な議論を繰り返しながら 100 年を超えて存在してきた組織です。何故ロータリーが 100 年以上存在し続けられたのか、そして未来に存在し続けるために何をすべきなのか、語る事、議論する内容は沢山あります。地区 RLI 委員会の卒後コースを通じて、ロータリアンが豊かなロータリーの土壌を開拓し、未来に活躍するロータリアンを育成することを願っております。

卒後コースにつきましては、終了後、RLI 地区委員会のご意見、ご要望を、RLI 日本支部に頂戴出来れば幸甚です。テキスト改訂時の参考にさせていただきます。
RLI の研修に参加して頂いて有難うございました。

1 ロータリーの歴史

ロータリーの歴史を振り返ると、時代の変革期に優れたリーダーが登場し、ロータリーを力強く牽引しています。ロータリーの歴史はモザイク模様を描きながらも、全体として一つの大きな未完成の壮大な絵画となっているようにも思えます。



110 有余年のロータリーの歩みを改めて検証することは会員のモチベーションを高め、未来へ向けて大きなイノベーションを生み出す機会にもなります。

セッションの目標

- 何故ロータリークラブが誕生し、今も発展し続けているのかを考える。
- 大きな時代の転換点に、適応し変革していったロータリーの歴史を振り返る。
(主な大きな変革とその背景にあるもの、そしてその結果を検証する)
- その時、あなたがリーダーであれば、どのような決断をしたかを議論する。

セッションの問い

1) ロータリーは何故生まれたのでしょうか。(その背景と歴史の必然性について)

2) 初期のロータリーの葛藤（フェローシップか奉仕か）を振り返りましょう。
なぜそのような対立が生じ、どのように解決したのでしょうか。

3) 全米ロータリークラブ連合会の誕生はロータリークラブに何をもたらしましたか。

- 4) 初期のロータリーを二分した決議 23-34 を巡る歴史を振り返りましょう。
この大論争は何をもたらしましたか？
- 5) 1927 年の目標設定計画により四大奉仕（当初は三大奉仕）が誕生しましたが、この四大奉仕の導入の意義は何でしょうか。
- 6) ロータリー財団を誕生させたアーチ・クランプ*の夢を振り返りましょう。
何故ロータリー財団が必要だったのでしょうか。
その初期の苦悩の時代から、今日の発展までの歴史をあなたはどう評価しますか。

アーチ・クランプ*

ロータリー財団の創始者。1916-17 年度国際ロータリークラブ連合会（後の国際ロータリー）会長。1911 年「材木——卸売ならびに小売」の職業分類でクリーブランド・ロータリークラブの創立会員となった。1917 年アトランタ国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案。数カ月後に、この新しく誕生した基金に米貨 26 ドル 50 セントの最初の寄付金が寄せられた。1928 年のミネアポリス国際大会で、このロータリー基金は「ロータリー財団」として認証された。（資料 1 ロータリーの歴史年表 P126、1917 年を参照してください）

- 7) 3H プログラムとポリオ根絶にいたる歴史の背景を議論しましょう。
この歴史的な転換はどうして起こったのでしょうか？

（『ロータリー日本 100 年史 本編』 P276~P300 「ロータリー日本 思想の潮流」神崎正陳 PDG の論文参照してください。）

セッション1 資料1

ロータリーの歴史年表 (2021 年 10 月 30 日改訂版)

RID2710 PDG 諏訪 昭登 (広島西 RC)

1868 : (M1)	<p>・ロータリーの創設者 Paul Harris 生誕 (ウィスコンシン州ラシーン 4/19)。その後、3 歳頃から祖父母の住むバーモント州ウォーリングフォードで成長した。</p>
1905 : (M38)	<p>・2 月 23 日、ポール・ハリス他 3 名 (シルベスター・シール、ハイラム・ショーレー、ガスターバス・ローア) がシカゴ・ロータリークラブを設立 (ロータリーの創立)。ノース・ディアボーン街、ユニティビル 711 号室、ローアの事務所にて (1 業種 1 会員の原則)。 初代会長はシルベスター・シール。例会は各会員事業所リレーから変更して第 7 回(5/18)をパーマーハウス - ホテルで新たに昼食付きで行い、その後暫くはホテル巡回で開催。極めて初期に歌唱の習慣始まる (ハリー・ラグルス)。</p>
1906 :	<p>・シカゴ RC 定款制定 <1 月> (定款第 2 条「綱領」に 2 項目「相互扶助と親睦の概念」を設定。例会で最初の定例的ロータリーソング開始 (ソングリーダー=ハリー・ラグルス)。 定款第 2 条「綱領」にドナルド・カーター直言により 3 項目に「社会奉仕概念」を追加 <12 月>。</p>
1907 :	<p>・ポール・ハリスがシカゴ RC 三代目会長に就任 (2 月)。当時、年度は 2 月~1 月。 公衆便所設置の市民運動を喚起し(1907)、1909 年、市内 2 か所に設置 (社会奉仕の実践)。</p>
1908 :	<p>・サンフランシスコに 2 番目のクラブ誕生。ついでオークランド(初の毎週例会クラブ、1909 年)、シアトル、ロサンゼルス、ニューヨーク、で RC 設立。 シカゴ RC が最初の家族会(レディース - ナイト、3/12)を開催。フレデリック・シェルドン、チェスリー・ペリーが入会 (6 月)。シェルドンが「職業分類表」を作成。 ポール・ハリス会長が拡大とシェルドンの Service 理念とを急進的に進め、クラブと意見対立を惹起して 2 年目途中で辞任 (10 月)。シェルドンも拡大委員長罷免。</p>
1910 :	<p>・全米ロータリー・クラブ連合会 (National Association of Rotary Clubs of America=NARCA) が誕生。シカゴで第 1 回ロータリー大会開催(8/15~17, 16RC 1,500 人)、後年これを RI の創立と位置づけた。ポール・ハリスが初代会長、ペリーが初代事務総長となりシェルドンは Business Method Committee 委員長となる。 ・最初のロータリーの綱領制定 (親睦が目的から外れ物質的相互扶助からの脱却を図る)。 ・大会演説でシェルドン (シカゴ RC) が “He profits most who serves his fellows best.” を発表。ロータリー年度開始がこの大会翌日からとなる。最初の SAA ワーナー・ヘドケ。ポール・ハリスがジーン・トムソンと結婚(7/2)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダでウィニペグ RC 誕生 (11/3、米国以外で初、翌年度加盟)。
1911 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「The National Rotarian」1月26日に発刊(第1巻第1号)、翌年9月に「The Rotarian」と改称(第3巻第1号として)。 ・ポール・ハリスが第1巻第1号に「Rational Rotarianism」掲載(ロータリーで重要な精神的要素 “Toleration” 「寛容」出典の起源)。 ・ポートランドで第2回大会開催。シェルドンのスローガンは “He profits most who serves best” (最もよく奉仕する者、最も多く報いられる) となり「ロータリー宣言」結語として満場一致で採択された。またフランク・コリンズ (ミネアポリス RC) がエクスカーション船上で、“Service, Not Self” (超我の奉仕) を発表したが大大会で採択されていない。 ・「The National Rotarian」11月号(第2巻第1号)にコリンズの “Service, Not Self” についての論文が掲載された。誤解されたが決して宗教的ではない。 <p>その後、次第に “Service Above Self” に変更され(変更者不明)、1920年頃までにシェルドンの標語と共に広く使用されるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英国にダブリン (2/2)、ロンドン (8/3) 他の RC 設立が本格的に開始。 ・「Rotary Club Manual」発行(手続要覧の原型)。
1912(T1) :	<ul style="list-style-type: none"> ・国際ロータリークラブ連合会(International Association of Rotary Clubs=IARC ドゥルース大会 50RC 6,000人、8/6~9) グレン・ミード会長、ポール・ハリス名誉会長。 ・連合会の綱領とクラブの綱領が分離された(親睦と相互扶助を一掃)。 ・クラブ綱領 5カ条を含む模範定款・細則発表。クラブ綱領に “service” という語が初出。 ・「ロータリー宣言」の結語に “Service is the basis of all business” が加わった(スローガンの前半部分)。ロータリー年度を大会翌日開始とした。 ・歯車のロータリーマーク制定。管区(後の地区)制制定。 ・シラキューズ RC の身体障害児対策が、やがてトレド RC やエリリア RC のエドガー・アレン等による国際身体障害児協会の設立につながる(社会奉仕活動の顕在化)。
1913 :	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の大型災害救援金・水害援助拠金(オハイオ、インディアナ両州救援合計\$25,000)。ロータリー年度の表現開始(7月~6月末決定・本格的実施は1917年)。 ・道徳律起草の提案(バッファロー大会)。シェルドンが黄金律を尊重した演説を行う。 <p>身体障害児対策開始(シラキューズ RC)。</p>
1914 :	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次世界大戦勃発(1914~1918)。イギリスとアイルランドで戦争避難民救済活動が始まる(国際奉仕の萌芽)。Aims and Objects Committee(目標設定委員会)設置。 ・ロータリー旗採用(ヒューストン大会)。IM 始まる(サンフランシスコ RC とオークランド RC)。ロータリー・クラブ・イギリス連合会結成(BARC。後の RIBI)。ニューヨークに初のアディショナル RC が設立された。
1915 :	<ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコ大会でアイオワ州スー・シティ RC (途中、リーダーはロバート・ハントから J.R.パーキンスへ) の労作である「ロータリー：道徳律(The Code of Ethics)」を採択(職業奉仕基準の確立)。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大会報告書の中に初めて“Ideal of service”の語が出現(グレン・ミード言)。 ・標準クラブ定款と模範クラブ細則を採用(クラブ管理の標準化)。 ・19の地区制度・ガバナー制度の制定。アディショナル正会員制度の制定。 ・身体障害児対策を本格開始、肢体不自由児への教育事業(トレドRC)。 ・キワニス・クラブ結成。トレドRCがトレド身体障害児協会設立。
1916 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイ・ガンデカー(フィラデルフィア RC)が道徳律を含む「A Talking Knowledge of Rotary (ロータリー通解)」を著し、連合会が出版(ロータリーの一般奉仕概念の確立)。 ・青少年活動国際委員会設立。米国で出席率競争開始。 <p>英語圏以外で初のハバナRC(キューバ)が設立された。</p>
1917 :	<ul style="list-style-type: none"> ・6月18日、アトランタ大会でアーチ・クラフ IARC(後のRI)会長がロータリー財団の前身となる”doing good in the world”を目標とした「ロータリー基金」(Rotary Endowment)を提唱した。(ロータリー財団の始まり)。 <p>国際大会の年度末開催が本格的に開始。調整のためこの年度は二度大会開催(シンシナティ、アトランタ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レズリー・ピジョン(カナダ・ウィニペグ RC)が米国外から初めて連合会会長になる。 ・7月、新年度に入り、カンザス・シティ RCがアーチ・クラフ IARC前会長への記念品代として集めた残金“26ドル50セント”を連合会に送ってきたので、理事会(1917.7.25-26)はクラフ会長が提唱した画期的基金への預託を採決した(最初の寄付)。 ・名誉会員制度制定。身体障害児協会開始(トレドRC)。 ・ライオンズ・クラブ国際協会を非ロータリアンのメルビン・ジョーンズが設立(6月7日)。
1918 :	<ul style="list-style-type: none"> ・連合会綱領に「ideal of SERVICE」という語が初出。 ・戦争避難民救済資金募集(アメリカの各クラブ)。第一次世界大戦終結。
1919 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョン・プール会長が“Service Above Self”を使って演説(Not Selfの衰退へ)。 ・連合会とクラブの綱領が統一される(ソルトレイク・シティ大会)。 ・地区ガバナー国際会議発足(後の国際協議会 3/17~18 シャーマン・ホテル)。 ・エリリア RCのエドガー・アレンがオハイオ州身体障害児協会を本格的に設立。
1920 :	<ul style="list-style-type: none"> ・フランク・コリンズ死去。 ・最初の手続要覧の Rotary Creed(ロータリー信条)に、「“He profits …”が「ロータリー宣言」にある二つの公式スローガンの後半部分として採用されている。スローガン全体は“Service Above Self—He Profits Most Who Serves Best”と読まれる」とある。 ・日本最初の東京 RC 誕生 10/20(認証番号 855、米山梅吉、福島喜三次両氏の尽力による)。少年週間“boy’s week”開始(ニューヨーク RC)(初の青少年のための活動)。 ・奨学金制度開始(アトランタ RC)。ロータリー徽章採用(楔穴無し)。 ・最初の「友愛の家」の原型がアトランティック・シティ大会で発足。

1921 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手続要覧に Rotary Creed の他に Rotary Motto が入り、「He Profits …」が一般的にロータリー・モットーとして使用されている。“Service Above Self—He Profits Most Who Serves Best”の形式でも使われている」とある(モットーへ名称改変)。 ・ 米国外で初めて国際大会を開催(エディンバラ)。これを記念して綱領の中に国際親善と平和の項目を加えることを決定(国際奉仕の綱領化)。 ・ シェルドンが大会で「ロータリー哲学」を講演し、黄金律を尊重しながら語る。直後にシカゴ RC からキングストン RC へ移籍。 ・ この頃 “Service, Not Self ” が一般的にも “Service Above Self ” に変更される。 <p>シカゴ RC 会員夫人および子女による” Women of Rotary Club of Chicago ” (シカゴ RC の女性達) の集まり発足=RC ではないが、シカゴ RC への協力を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全米身体障害者協会、身体障害者復帰国際協会設立。ソロプチミスト創立。
1922 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際ロータリー (Rotary International) RI と改称。ロサンゼルス大会<6/5~9>1,243RC81,000 人。 ・ ロータリーの綱領改正(現在の原型、6 カ条に。新しい標準 RI 定款・細則及びクラブ定款・細則を採択。メイクアップ制度を含む出席規定制定(クラブ管理の抜本的改正)。 <p>但し 6/6 以前加盟のクラブは大会採択と異なる規定を維持可能とした(特権保有クラブ。)イギリスの RIBI による地域運営が容認される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪 RC が誕生 11/17 (登録番号 1349)
1923 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ セントルイス大会で決議 23-34 採択 <ウィル・マーニア Jr.=ナッシュビル RC、 <p>ポール・ウエストバーグ=シカゴ RC>(ロータリー理念、原則の確立)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東大震災(9/1)に際し RI と各国 RC から多額の見舞金が贈られる (RI : \$25,000、合計\$89,000)。ロータリーホーム建設。震災孤児支援募金。(東京 RC。ニコニコ箱の原型)。
1924 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロータリー徽章の正式規格(楔穴付き) RI 理事会採択。 <p>「友愛の家」が正式名称とされ、以後常時開設される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無地区時代日本にスペシャル・コミッショナー初代に米山梅吉就任(1924~1926)。
1926(S1) :	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回ロータリー太平洋地域大会 (5 月・ホノルル) <p>日本初の RI 理事に米山梅吉就任 (1926~1927)。第 1 回都市連合懇親会開催(5 月・大阪)。</p>
1927 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベルギーのオステンド大会で四大奉仕部門(うち国際奉仕は翌年)を承認。クラブ奉仕部門、職業奉仕部門を新設し 23-34 が安易に“社会奉仕に関する声明”とされ社会奉仕部門とされた(26~6)。 <p>Aims and Objects Committee (目標設定委員会) 提案による(四大奉仕への転換)。道徳律頒布中止。最初の青少年交換。RIBI 正式承認。</p>
1928 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ロータリー財団」法人設立。のち、1931 年信託組織化、1983 年イリノイ州法のもとで非営利財団法人化(財団活動の確立)。 <p>ポール・ハリス著「The Founder of Rotary(ロータリーの創設者)」を RI 出版。ビビアン・カーター著「The Meaning of Rotary(ロータリー解析)」出版。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が満州、朝鮮を含む第 70 区(13RC)に制定される。初代ガバナー米山梅吉。 大連 RC 設立。大連 RC の「ロータリー宣言」発表（古沢文作）。 第 2 回ロータリー太平洋地域大会（10 月・東京）。
1929 :	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 RI 第 70 区年次大会開催（4 月・京都 第 4 回都市連合会を改称）。 ・モットー” He Profits---” 廃止提案（ダラス大会 29-7） 否決。ロータリー徽章（楔穴付き）確定（29-12）。ロータリー旗規格確定。世界恐慌（10 月。）
1930 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー創立 25 周年、シカゴで盛大な記念大会開催（11,008 人） パスト・サービス会員制度制定。青少年交換指針発表。シェルドン退会。 ・ロータリー財団がポール・ハリスの寄付による最初の補助金 500 ドルを拠出（エドガー・アレンの国際身体障害者協会<後のイースター・シール協会>へ）。 ・日本スマイル箱の原型（ただし罰金徴収式）が大坂 RC で発足。世界的不景気発生。
1931 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー財団信託宣言。 ・浄財拠出型スマイルボックス開始（東京 RC 関幸重命名）。道徳律頒布禁止。 日本第 1 回地区協議会開催（9 月、第二代井坂孝 DG）。定期的月信発信第 1 号(8/10)会長幹事宛、第 4 号（10 月）から全会員に配布。台北 RC 設立。 ・RI 公式資料「目標設定計画」の中で、“ideal of Service” を具体的に説明（初出）。
1932 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「四つのテスト」創案（ハーバート・テラー）。「国の法律習慣に関する批判」発表。 ・史上最初の会員数減（世界不況）。RI が初めての同時通訳システム導入（於ビクトリア）。
1933 :	<ul style="list-style-type: none"> ・1 都市 1 RC 制廃止(33-26)。「四つのテスト」発行。「ロータリアン間の取引関係」発表。 ・右傾団体などからの圧力で京都 RC12 月第一例会、12 月 6 日に石川芳次郎会長が君が代合唱（及び日の丸掲揚＝推察）開始（京都 RC 週報）。戦後も各 RC で継続されている。
1934 :	<ul style="list-style-type: none"> ・規定審議会が国際大会の必須部門として発足。シカゴ大学が「Rotary?」出版。 ・「国事に関する方針の声明」発表。少年週間が青少年週間（“youth week”）となる。
1935 :	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の「ロータリーの綱領」ほぼ完成、前文と四カ条の本文という解釈（目的の明確化）。 ・ポール・ハリス夫妻来日（帝国ホテル内庭に「友愛の樹<月桂樹>」手植え（2/9）。 ・国家間訪問（ロータリー友情交換プログラム）設定。 ・ポール・ハリス著「This Rotarian Age(ロータリーの理想と友愛)」を RI が出版。 ・「奉仕の理想」「我等の生業」発表。第 7 回 第 70 区京都大会で発表。シェルドン没。

1936 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「国家有事中のロータリー活動」発表。「大連クラブロータリー宣言」採択（区神戸大会、5月）。ロータリーの日本化運動。 RI の中央集権制に日本への地域分権制導入を申し入れた(芝染太郎特使 妥協、撤回)。 ・「ニコニコ箱」の常設（大阪 RC 7月、東京 RC 9月）。 ・青少年週間が少年・少女週間（boy' s and girl' s week）となる。 ・ドイツで RC 解散。翌年イタリア・オーストリアで解散続く。
1939 :	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 次世界大戦勃発(1939-1945)。日本、第 70、71、72 区となる。自治地域制度適用。 ・日満ロータリー連合会(RIJM)結成（区別府大会・7月）RI 黙認？ ・国際身体障害者協会 推進。（エドガー・アレン）。 シニア会員新設、会員身分制度確立へ。
1940 :	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回日満ロータリー地区連合年次大会（横浜・5月）。 ・RI ハバナ大会で“人間尊重を求める”決議案を採択 戦後、国連憲章の基となった。 ・日本の RC が RI 脱退宣言（9/4）。七曜倶楽部連合会結成。各クラブは和風名称に変えて例会を続ける。RI「青少年への奉仕の目標」発表。
1941 :	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、太平洋戦争に突入(1927年 7/7 日中戦争開始から“アジア・太平洋戦争”と名称)。
1942 :	<ul style="list-style-type: none"> ・RI 第 13 地区の大会が 21 カ国政府を代表する関係者をロンドンに招待して教育文化交流機構について協議する会議を開催、これが後にユネスコとして成立。 ・シニア会員をシニア・アクティブ会員に変更。「ロータリアンに対する事業上の援助と助言発表。“Service Through Business” 宣言文採択。チェスリー・ペリー RI 事務総長退任。 ・史上二番目の会員減少(1940~1942) 第 2 次世界大戦起因。
1943 :	<ul style="list-style-type: none"> ・RI 理事会は、1932 年にハーバート・テラー（シカゴ RC）が考案した「四つのテスト」を正式採用。後の 1954 年、テラーは RI 会長就任に先立ち版權を RI に寄贈。
1945 :	<ul style="list-style-type: none"> ・46 カ国 49 人のロータリアンが国連憲章起草に参画。ロータリー財団の目標設定。 ・第二次大戦終結。グアム RC が RI 復帰（戦後第 1 号）。
1946 :	<ul style="list-style-type: none"> ・米山梅吉逝去（4/28）。福島喜三次逝去（9/17）。
1947 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ポール・ハリス逝去(1/27 享年 78 歳)。追悼募金が 5/1 までに 125,000 ドル集ったので「高等教育のための奨学金制度」(後の国際親善奨学生)を開始し、18 名の奨学生派遣。 追悼募金は合計 130 万ドル超に達した。日本第一回 RI 復帰協議会発足（7/16）。
1948 :	<ul style="list-style-type: none"> ・職業奉仕解説書、パーシー・ホジソン著「Service is My Business（奉仕こそわがつとめ）」を RI が出版。ポール・ハリス著「My Road to Rotary（わがロータリーへの道）」を RI が出版。職業奉委員会廃止。
1949 :	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の RC が RI に復帰 認証 3/29（第 60 地区：東京 3/23、京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌、他含む 13RC、1949 年度末には 20RC）。 1 都市 1RC 制を完全廃止。ドイツも復帰。国際協議会がシカゴ中心からレーク・ブラシッドに移り“Enter to Learn, Go Forth to Serve”掲

	<p>示開始（ケンドリック・ガーンジイ 1947-48 RI 会長 作）。日本戦後初の手島知健ガバナー（東京 RC）就任。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーシー・ホジソン RI 会長が RI テーマの原型を初発表。
1950 :	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの標語 “He Profits Most Who Serves Best” と “Service Above Self ” をロータリー標語として公式採用（デトロイト大会）。ICGF（後の IM : 都市連合会）義務化。 ・日本からの第 1 期ロータリー財団奨学生送り出す<1949~50>（清水長一米国へ。元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏は翌年の第 2 期生）。中国の RC が解散開始。 ・インドの RC が定款から “male” の字を削除することを提案（否決）。朝鮮戦争勃発。
1951 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロータリー道徳律」本文が RI 細則から削除されて名称のみ残る。中国 RC 全面解散。 ・ロータリーの綱領の “Objects” を “Object” に変更、単数に変更して 1 カ条の主文と四つの付随項目という解釈とした（アトランティックシティ大会 51-9）。 ・RI 加盟承認番号を廃止。Aims and Objects 委員会廃止。 ・日本最初の ICGF（現 IM）開催。 ・最初の財団奨学生ビュートー君来日（東大）。サンフランシスコ平和条約締結。
1952 :	<ul style="list-style-type: none"> ・東京 RC で古沢丈作会長が米山記念奨学金制度を提案（翌年より実施）。第 1 号の寄付者は米国のウイリー・ネルソン氏。「手に手つないで」発表（第 60 地区大阪大会）。 ・日本 2 地区（第 60、61 地区）に分割。日本戦後初の RI 理事に手島知健 PDG が就任。 ・ロータリー解説書「Adventure in Service(奉仕の冒険)」を RI が出版。 ・日本で初めてのライオンズ・クラブ設立。
1953 :	<ul style="list-style-type: none"> ・2地区分割に対応して、機関紙「ロータリーの友」創刊。第 61 地区神戸大会で「手に手つないで」を唄い円陣を作ることが始まる。「それでこそロータリー」発表。 ・ホアキン・シビルス RI 会長が RI テーマを本格的開始、継続。朝鮮戦争休戦協定（7月）。
1954 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「四つのテスト」著作権が作成者 H.テラーから RI 会長就任を機会に RI に寄贈される。 ・エバンストンに RI 中央事務局完成。 ・RI テーマ公式邦訳開始 ロータリー文献邦訳決定権者に手島知健 PDG。 ・「四つのテスト」公募による邦訳決定（本田親男）。 ・米山奨学生第 1 期ソムチャード・ラタナチャタ氏（タイ）来日。 ・チェスリー・ペリーがタルサ RC で “ideal of Service” を説明（公式名簿巻末に引用）。
1955 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー創立 50 周年シカゴで大会。記念誌” Rotary-Fifty years of Service” 出版。 ・ロータリー財団の目標改正。日本 4 地区に分割。

1956 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー財団週間制定。第1期 ROTA (GSE の前身) 実施。 ・規定審議会の最初の隔年合会開催。戦後初の日本語訳手続要覧完成 (手島知健、宮脇富)。
1957 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ポール・ハリス・フェロー開始。地区番号が3桁になる。 ・全国規模の米山記念奨学委員会設立。日本5地区に分割。
1958 :	<ul style="list-style-type: none"> ・世界理解週間制定。
1959 :	<ul style="list-style-type: none"> ・財団奨学生の目的を国際理解に変更。RYLA がオーストラリアで発足。財団 GSE 採択。 ・「Seven Paths to Peace(平和への七つの道)」を RI が出版。日本6地区に分割。
1960 :	<ul style="list-style-type: none"> ・チェスリー・ペリー没(2月)。日本7地区に分割。
1961 :	<ul style="list-style-type: none"> ・RI 第52回東京国際大会開催 (エド・マックローリン RI 会長、参加国及び地域74以上史上最多23,366人、アジア最初の大会)。天皇陛下来臨。日本8地区に分割。 ・RI が「職業分類指針」発行。100万ドルの食事始まる (マサチューセッツ州)。
1962 :	<ul style="list-style-type: none"> ・最初のインターアクト・クラブがフロリダ州メルボルンに設立され世界各国に拡大。 ・翌年、日本最初のインターアクト・クラブ - 仙台育英高校 IAC 設立。 ・世界社会奉仕プログラム (WCS) の導入 (国際奉仕活動の本格化)。 ・この頃から工業化学薬品過使用、煤煙排出などによる公害、環境問題がクローズアップ。
1963 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際ロータリーの基本方針」「ロータリーの基本的特色」「国際青少年計画への指針」を発表。世界社会奉仕委員会企画発表。ポール・ハリス夫人ジーン逝去(11月)。 ・カール・ミラー会長が WCS プログラムを開始。
1964 :	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア・アクチブ会員、アディショナル会員制度一部改正。 ・マッチド地区とクラブ・プログラム実施 (1963年に計画)。 ・スリランカの RC が女性入会容認の制定案を提出 (否決)。 ・RI 文献日本語翻訳配布事務が東京文献事務所へ移行。 ・日本10地区に分割。キワニスクラブ日本に渡来。
1965 :	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング・グラント開始などロータリー財団プログラム改正 (各種補助金)。 ・研究グループ交換 (GSE) 発足。分区代理制度開始。日本11地区に分割。
1966 :	<ul style="list-style-type: none"> ・WCS 財政援助制限解除 (金銭的援助緩和) RI 職業分類指針発刊 (最終)。 ・最初の GSE 来日 (サンフランシスコ RC 中心、東京 RC ホスト)。
1967 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー米山記念奨学会を財団法人化。地区出席競争制定。日本13地区に分割。
1968 :	<ul style="list-style-type: none"> ・東ヶ崎 潔氏が日本初の RI 会長に就任(1968-69)。 ・ローターアクト計画発表 (同年、川越に日本最初のローターアクト・クラブ設立)。 ・海外ロータリー・ボランティア制度発足。世界親睦活動発足。居住地会員制度制定。 ・アーチ・クラフツ賞設定。職業分類表を各 RC に委任。RI と RIBI 関係正常化。

	<p>「意義ある業績賞」設定。日本 14 地区に分割。東京帝国ホテル旧館破壊して「友愛の樹」枯死救済策開始（矢野一郎氏）。一世樹枯死すれども、挿し木により 7 本再生＝二世樹）。</p>
1969 :	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年活動週間制定。地区幹事・地区会計制度制定。IGF 開催をガバナーの裁量に委任。
1970 :	<ul style="list-style-type: none"> ・規定審議会を 3 年毎の RI の立法機関として決定（組織の立法化）。 ・日本ロータリー 50 周年。「ロータリー資料室（現ロータリー文庫）」設立。 ・シニア・アクチブ会員制度一部改正。「職業分類対訳表」発行。日本 17 地区に分割。
1971 :	<ul style="list-style-type: none"> ・1959 年オーストラリアとニュージーランドで開発されたロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）を公式採用。 ・世界社会奉仕推進を強調。「公害防止の指針」発表。日本 18 地区に分割。 ・「ロータリー日本 50 年史」出版。ロータリー重要文献日本語訳改定実施。
1972 :	<ul style="list-style-type: none"> ・RI の立法機関としての規定審議会が初開催（ヒューストン大会）。「環境の改善」発表。 ・米国の RC が女性会員入会を提案（否決）。 ・日本第 1 回ロータリー研究会開催(12 月、京都)。
1973 :	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 20 地区に分割。
1974 :	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年交換プログラム始まる。「環境保全と資源問題委員会」設置。中絶の「意義ある業績賞」復活。規定審議会の 3 年毎開催確定。
1975 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「国法の遵守」発表。「ロータリーの友」英語版創刊。 ・この年度後半、6 月に RI 第 366 地区（大阪・和歌山）が RYLA を日本で初開催。
1976 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーの目的（定義）発表。日本ガバナー連絡会議（今のガバナー会）発足。
1977 :	<ul style="list-style-type: none"> ・規定審議会を RI 大会から独立の立法機関として開催。日本の地区番号が 200 番台に。 ・カリフォルニア州デュアルテ RC に女性（シルヴィア・ウイトロック）入会。日本 22 地区に分割。
1978 :	<ul style="list-style-type: none"> ・RI 第 69 回東京国際大会開催（ジャック・デービス RI 会長、参加国及び地域 95 以上、史上最多 39,834 人）。 ・保健・飢餓追放・人間尊重（3-H）プログラム発表（RI 主導型奉仕活動）。 ・米国デュアルテ RC が女性を入会させていたので RI がクラブを除名（3 月）、その後裁判へと移行。ロータリーの目的（定義）を手続要覧に掲載。日本 23 地区に分割。
1979 :	<ul style="list-style-type: none"> ・職業奉仕週間新設。フィリピンでポリオ予防接種開始（3H 補助金第 1 号）。
1980 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー創立 75 周年シカゴ大会。それに合わせてポリオ予防接種のための 3-H プログラム推進。 ・「道徳律」（RI 細則第 16 条）が名称だけ残っていたのを完全削除（80-22）。 ・「ロータリーの友」公式地域誌に認定。日本 24 地区に分割。「友愛の樹」一世樹から再生の二世樹 7 本の内、東京帝国ホテル左前庭、皇居

	北の丸公園に移植（東京 RC 創立 60 周年記念）他、米山記念館、二宮尊徳記念館。残り 3 本中 1 本枯死、2 本が神奈川県大井町の第一生命本社敷地内に現存。二世樹から枝分けされた少数の三世樹からの四世樹が拡散開始。
1981 :	・恒久基金設定。RI 日本支局開設（現日本事務局）。RI が“ロータリアン必携”発行。
1982 :	・向笠広次氏、日本人二人目の RI 会長に就任(1982-83)。「日本ロータリー60年史」出版。 ・毎週例会を全 RC が導入。ダラス大会で初めて“Women in Action for Rotary”セッション開催。第一回日韓親善会議開催（ソウル）。文献代行者制廃止。日本 26 地区に分割。
1983 :	・ロータリーの特別月間開始。女性入会容認で除名されたデュアルテ RC が RI を告訴。
1984 :	・「ロータリーの基本的特色」発表。「ロータリーの目的」を「ロータリーの定義」と改正。 ・決議 23-34 が手続要覧から突然の削除。 最初のカラー・ジャケット(黄色)をカルロス・カンセコ RI 会長が使用。
1985 :	・ロータリー創立 80 周年。「ポリオ・プラス計画」を発表（翌年より実施）。1 億 2,000 万ドル募金発足（ポリオ撲滅運動の推進）。日本 27 地区に分割。
1986 :	・ロータリアンが 100 万人を突破、日本では 10 万人を超える。 ・決議 23-34 が手続要覧に復活。ローズ・パレード（パサデナ）でポリオ・プラス計画をテレビ公表。RCC（ロータリー地域共同体）採択。カリフォルニア州最高裁判所で勝訴したのでデュアルテ RC が RI に復帰（9 月）。RI はこの判決を不服として直ちに米国連邦最高裁判所に控訴。デュアルテ RC で世界初の女性会長シルヴィア・ウイットロック就任。新設では世界初の女性を含めたマリン・サンライズ RC 創立。 ・米国最高裁所は RI の控訴を棄却して、RC への女性入会を合法判決とした。
1987 :	・RI 職業奉仕委員会復活（40 年ぶり）。職業奉仕に関する声明発表（職業奉仕概念の変更）。 RI 長期計画委員会発足。 ・初めての RI 平和フォーラムがエバンストンで開催。日本 28 地区に分割。
1988 :	・広島で 1987 年度第 4 回ロータリー平和会議(フォーラム)開催。ロータリー友情交換採択。 ・「他団体への協力」発表。ロータリー理解推進月間・会員増強拡大月間新設。 GPEI（世界ポリオ撲滅推進活動）発足。ポリオ・プラス募金 2 億 4,700 万ドル達成。
1989(H1) :	・女性ロータリアンを認める 1987 年米国連邦最高裁 RI 敗訴判決を受けてシンガポール規定審議会で採択(89-54)。日本最初の女性会員 松田郁子（RID2500 北海道清水 RC）。 ・「ロータリアンの職業宣言」採択。「ロータリーの定義」文言改正。 “Service Above Self”（超我の奉仕）が第 1 標語とされた。 ・「綱領」の日本語訳文変更。日本 30 地区に分割。

1990 :	<ul style="list-style-type: none"> ・IGF を IM に呼称変更 (日本 ICGF→IGF→IM)。 ・ソビエト連邦政府と RI がモスクワに仮ロータリークラブ結成を合意した。(3/24) ・「子供の権利」発表。ロータリー財団寄付シェア・システムに改正。「われらの天体、地球の保全プログラム」が発表されて、同プログラムのパイロット始動承認。
1991 :	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ポリオ・プラス・キャンペーン終了 (募金総額 49 億円 : 1985 年から目標 40 億円)。その後、財団ベースで継続。 ・ロータリー財団シェアシステム実施。「国際ロータリーの使命」発表 (団体奉仕活動の提唱)。日本 31 地区に分割。地区番号が 4 桁・2000 番台に変更された。 ・ソビエト連邦が崩壊し(12/25) ロシア・ソビエト連邦共和国成立。以後、この通称“ロシア共和国”内にウクライナなど多くのロータリークラブが急速に設立された。
1992 :	<ul style="list-style-type: none"> ・社会奉仕に関する声明 (決議 92-286) 採択 (社会奉仕基準の改正)。 ・環境保全 (決議 92-287) を発表。アディショナル正会員制度一部改正。規定審議会へのクラブからの提案は地区大会決議を必須とした。地球温暖化が注目され始める。 日本 33 地区となる。
1993 :	<ul style="list-style-type: none"> ・世界社会奉仕の目標発表。
1994 :	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大陸ポリオ・フリー宣言。日本 34 地区に分割。
1995 :	<ul style="list-style-type: none"> ・規定審議会にて“ポリオ撲滅を RI の最優先事項とする”を採択。メイクアップ期間の変更 (前後 2 週間)。パスト・サービス会員資格改正。「家族」構想開始。家族週間指定。 「ロータリーの定義」改正。女性最初のガバナー8人誕生。
1996 :	<ul style="list-style-type: none"> ・各地で新世代会議開催。新世代のための月間発足。ロータリーの綱領下文に RI 見解付加。 ・「女性のニーズに応えるロータリー活動声明」採択。DLP (地区リーダーシッププラン) が全地区に推奨される。日本が第 1.2.3.4 ゾーンとなる。
1997 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュー・リーダーシップ・プラン採用。「ロータリー家族」構想推進。
1998 :	<ul style="list-style-type: none"> ・IM が手続要覧から抹消。出席規定適用免除改正。「国際ロータリーの使命」改正。 「青少年」から「新世代」のためのプログラムへ変更。RI 大会で日本人親善朝食会開始 (インディアナポリス大会)。
1999 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーセンターの設置決定 (日本では国際基督教大学に設置、2002 年開始)。 RI 日本事務局翻訳室廃止。以後、翻訳は世界本部日本語課が担当。 RI がロータリー章典を初発行 (英語版)。
2000 :	<ul style="list-style-type: none"> ・DLP が義務的実施予定と決定。CAP (地域社会援助プログラム、後の地区補助金) 開始。西太平洋地域ポリオ撲滅宣言。日本 35 地区に分割。
2001 :	<ul style="list-style-type: none"> ・会員を正会員と名誉会員に統合、他の各種会員廃止 (1 業種 1 会員制変更)。 サイバーRC のテスト認可。メイクアップ規定の変更。「国際ロータリーの使命」改正。 クラブ区域限界(territory)の呼称が所在地域(locality)に変更。第一回国

	際 RYLA 会議。
2002 :	<ul style="list-style-type: none"> ・1993 年から試験的に実施され 1996 年に推奨プランとなった地区リーダーシップ・プラン (DLP) が義務的实施となる (ロータリー第 2 世紀への体制強化)。 RI 長期計画委員会発足。ヨーロッパ大陸ポリオ・フリー宣言。 ロータリー世界平和フェロー第 1 期生入学。 ・創立 100 周年に向けて「ポリオ撲滅キャンペーン」展開。日本 34 地区に再編成。
2003 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロータリー家族」をこの辺りから RI 会長強調事項とした。家族月間設定。
2004 :	<ul style="list-style-type: none"> ・“He Profits Most・・・”を“They Profit Most・・・”に改正。 ・ロータリーにおいて歴史的重要な説明や文書の原文を保存することを決議(04-273)。 ・2000 年より DLP に連動するクラブ管理プランとして検討され、2003 年より試験的推奨が始まっていたクラブ・リーダーシップ・プラン (CLP) 導入の推奨クラブ細則が発表された (11 月 RI 理事会)。RI 長期計画 (2004-07) 発表。 ・「ロータリーの基本的特色」削除。「ロータリーの定義」表示消去。 ・RI 第 95 回大阪国際大会 (ジョナサン・マジアベ RI 会長、参加国及び地域 112 以上、史上最多 45,595 人)。RI が「奉仕の一世紀<国際ロータリー物語>」発行。
2005 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー創立 100 周年記念大会 (シカゴ、参加国及び地域 161 以上、39,460 人)。 期限としていたポリオ撲滅があと 1 %未達成となり、以後これを RI 最優先目標とした。 ・日本に財団学友による RC が RID2780 神奈川に誕生 (2007 年に大阪でも誕生)。 CLP 推奨細則一部改正。財団の「未来の夢計画」委員会設置。
2006 :	<ul style="list-style-type: none"> ・財団の「未来の夢計画」始動 (財団の新方針)。半期必須出席率 60% が 50%に緩和。 ・「国際ロータリーの使命」改訂。上海、北京 RC が認証された。
2007 :	<ul style="list-style-type: none"> ・財団学友、ボランティア・リーダーの入会を承認。(会員資格の大変更)。 ・四大奉仕部門をロータリー・クラブ定款に明記 (2010 年に五大奉仕となる)。 ・ポリオ撲滅がロータリーの最優先事項であることを確認。 ・ポリオ撲滅へのビル・ゲイツ財団からの 1 億ドルの寄付に対応してロータリー1 億ドルチャレンジ・グラント発表 (翌年より 2 億ドルを目標として 2012 年 6 月末まで継続)。 ・RI 長期計画 2007-10 (中核となる価値観記載) 発表。「国際ロータリーの使命」改正。 ・ロータリー財団の使命、標語(Doing good in the world)、優先事項など採択。 ・初の公式日本語訳ロータリー章典発行。以後継続していない。 ・日本人初の女性ガバナー(2007~2008)、RID2630 田中稔子 (としこ) 就任。
2008 :	<ul style="list-style-type: none"> ・決議 23-34 がロータリー章典から抹消 (手続要覧には記載)。

	<ul style="list-style-type: none"> ・女性 RI 理事第一号 カロリーヌ・ヌヴォー(パリ RC) 第一回日台親善会議 (於東京日本 26 地区に分割。)
2009 :	<ul style="list-style-type: none"> ・RI 第 100 回バーミンガム国際大会(参加国及び地域 157 以上、16,062 人)。 RI 職業奉仕委員会再復活。公式名簿巻末の“ideal of Service”説明文を削除し改変。 日本が第 1,2,3 ゾーンとなる。ゾーン研究会がロータリー研究会と改称された。
2010 :	<ul style="list-style-type: none"> ・新世代奉仕が加わり五大奉仕部門となる。 ・“They Profit Most…”を“One Profits Most…”に変更。 ・4月の規定審議会で「決議 23-34 第 1 項を奉仕の哲学の定義として使用することを検討するよう RI 理事会に要請する件」採択 (10-182 釧路北 RC 提案)。6 月理事会で確定。 決議 23-34 のロータリー章典、手続要覧両方への掲載決定 (ロータリー理念の再確認)。 ・RI 新長期計画発表 (2010-13)。E クラブ承認。「未来の夢計画」パイロット地区発足。 ・「ロータリーの定義」説明削除。「国際ロータリーのビジョン」「中核となる価値観」発表。 米山学友を中心の東京米山友愛ロータリークラブが設立。日本最初の E クラブ設立。
2011 :	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロータリアンの職業宣言」を「ロータリーの行動規範」(8 項目)と改正変更。 WCS (世界社会奉仕) が廃止され国際奉仕に一元化(7/1 から)。 ・RI 長期計画は RI の「ビジョン」を「本質」と改正。10 月には「長期計画」(和訳名)を「戦略計画」と改称。(One Rotary <RI と TRF の一元化> 構想推進)。 ・RI 職業奉仕委員会を RI 職業奉仕推進委員会と改称して継続。 ジョン・ヒューコ氏が RI 事務総長就任。“The Rotarian”のデジタル版発刊。
2012 :	<ul style="list-style-type: none"> ・田中作次氏、日本人三人目の RI 会長に就任(2012-13)。インドをポリオ常在国から除外。 ・ポリオ撲滅ロータリー 2 億ドルチャレンジグラント達成。さらに募金活動推進。
2013 :	<ul style="list-style-type: none"> ・“Object of Rotary”の日本語訳「ロータリーの綱領」が「ロータリーの目的」とされ内容の訳文も改正された。ガバナー協議会 (2008~09 年度 PDG) 活動の成果。 ・国際奉仕の基本方針削除。ゲイツ財団がポリオ・プラスへの寄付継続を表明。 ・新世代奉仕部門を青少年奉仕部門と改称。E クラブ数制限撤廃。 ・広島で 2012 年度ロータリー世界平和フォーラム開催 (ベルリン、ホノルルに次いで)。 ・ロータリー財団新補助金プログラム「未来の夢計画」実施 (7/1 から)。「六つの重点分野」採択。
2014 :	<ul style="list-style-type: none"> ・1 月、国際協議会に 1949 年以来掲げられていた “Enter to Learn, Go Forth to Serve” が廃止され、“Join leaders, Exchange ideas, Take action” が掲示された。

	<ul style="list-style-type: none"> ・1月、「ロータリーの行動規範」が8項目から5項目となり、さらに10月には4項目となる（第5項目削除はロータリー・グローバル・リワード実施のための準備）。和訳名がまもなく「ロータリアンの行動規範」と是正された。ロータリー学友の定義拡大。 ・ロータリー雑誌購読義務が電子版でも良いと承認（2010年11月RI理事会）されたことに対応して「ロータリーの友」電子版1月号発刊。RI戦略計画が修正されつつ進行。 ・10月、特別月間を「六つの重点分野」をベースとして大幅変更決定（2015年7月実施）。東南アジア地域ポリオ・フリー宣言。
2015 :	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー・グローバル・リワード（会員特典プログラム）開始。（「ロータリアンの職業宣言」の基本変更）。 ・新特別月間開始。特別週間の部分変更もあり。
2016 :	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、規定審議会でロータリー史に残る多くの重要な決定。「柔軟性」というキーワードで -例会と出席に関する例外規定（16-21）。 -会員身分に柔軟性を認める例外規定（16-36、38）。 -決議審議会が毎年開催され決議案のみオンライン採決となり、制定案だけが3年毎の規定審議会で採択されることとした。（16-113）2017年度開始。 -Eクラブが事実上従来型クラブと同一となり文言削除（16-30、82）。 ・「RI戦略計画の最新情報」が発表され、「奉仕」に偏重傾向を見直して「会員組織」と等重量となるよう心がけるとの説明（基本の再確認）。 ・「日本のロータリー100周年実行委員会」設置。
2017 :	<ul style="list-style-type: none"> ・1月、理事会は8年毎のゾーン編成見直しにより新編成案採択。6月理事会から総括的審議継続開始。「ロータリーのビジョン声明」発表。 ・2016年度「ロータリー財団100周年」祝賀行事が世界的にロータリー・デーとして実施。 ・ロータリー財団100周年記念アトランタ大会が盛大に開催（6/10～6/14 33,900人）。ロータリー財団 記念誌“「世界で良いことをしよう」人々の心に触れた100年”発行。 ・地区指導者育成セミナーがRIの研修サイクルから削除決定（9月）。 ・最初の決議審議会が10月15日～11月15日にオンライン投票で開催された。
2018 :	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいRI戦略計画が6月の理事会で採択された。ローターアクト発足50周年。 ・2020年の“日本のロータリー100周年”を記念して作成のゴールデン・ゴングを1年先行して7月から各地区ガバナーが公式訪問などへ携行して点鐘した。 ・新制度の2019年規定審議会への立法案集（制定案のみ）発表。会期が1日短縮決定。 ・地区リーダーシップ・プランが10月理事会で大幅に修正された。（2019年7月1日から有効）（体制強化推進）。ロータリー未来形成委員会設置。 ・中華人民共和国で増えつつあるロータリーを海外NGOとして登録する手続きを行うことに同意した（RI10月理事会）。
2019:(R1)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロータリアンの行動規範」が1項目付加され、5項目となった（1

	<p>月理事会)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月、規定審議会が一日短縮で開催され、前回到続いて更に柔軟性として革新性を標榜する提案が採択された。(RIのIT化が急加速)。 -メイクアップ期間を同年度内とする(19-35)。 -公職、RI職員規定を削除(19-37)。 -職業分類の制限廃止(職業分類は残される)(19-39)。 -事務総長が「最高経営責任者(CEO)」の肩書を使用する事を採択(19-62)。 -ローターアクトクラブがRIに加盟する事を採択(19-72)。それに伴い2017年発表「ロータリーのビジョン声明」の主語“私たちロータリアンは“から“私たちは”と変更。 ・RIとTRF共通の2020-2021年次目標が戦略計画をベースとした形で採択。戦略計画の優先事項に行動計画を付加して行動を促している(5月理事会)(RIとTRFの一元化)。 ・ポリオ撲滅計画の日本語訳を根絶と改称。DEI声明採択。 ・RACがRIに加盟する事が承認されたため、7月には最善の形で実施するための調査をするタスクフォースが設立されて、理事会が未確定事項の審議を急進。 <p>10月にはRAC会員の年齢上限解除など多くの案件が採択された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月、中国武漢市で新型コロナウイルス流行発生し、世界的に大拡散始まる。
2020:	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる理事会は新型コロナウイルスへの対応としてRI、地区、クラブなどの会合をオンラインで行うことを推奨、容認した(3月) <p>更に2020年6月予定のRI国際大会(ホノルル)の中止を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RI国際大会をバーチャル大会で実施することを決定。ロータリーのプログラム、会合、行事の全参加者の健康と安全を最重要として、新型コロナウイルスへの対応原則は各会合で直接顔を合わせることを義務としない事とした。この原則を念頭に、現状における具体的なロータリー活動の規則と指針を採択した(4月)。(新しい組織運営様式の導入)。 ・ロータリーグローバルリワード-プログラムを2021年6月末で終了することを決定。 ・日本では3月初旬からの例会の取りやめや、次年度地区準備会合、地区大会などの中止や延期が相次ぎ、大きな混乱を来した。 ・国際キワニス、ライオンズクラブ国際協会、国際ソロプチミスト、国際ロータリーの各会長が懇談し、「新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的大流行(パンデミック)収束のため、共に行動を起こし、団結を図る革新的な方法を見出すことに全力を注ぐ」という合同声明を発表した(5月)。(世界的大規模合同奉仕活動への展望) ・RI理事会とロータリー財団管理委員会は「環境の保全」、のち「環境」という新たな7つ目の重点分野を追加した。当プロジェクトの補助金申請は2021年7月1日から受付。 ・RIの公式機関紙の名称が「The Rotarian」から「Rotary」に改称された。2021年1月号またはそれ以前からとされている。 ・DEI(多様性、公平さ、開放性)に関する包括的行動計画作成の任務をタスクフォースに要請(6月)。 ・SRF(Shaping Rotary's Future=ロータリー未来形成)委員会正式設置(8月)。

	<p>RI の新たな構造モデルの草案起草推進を要請（10 月）。 11 月から現状における案を公表。日本でも 12 月にかけてオンライン説明会開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ロータリー100周年（東京 RC 創立 1920 年 10/20）を迎えた。
2021 :	<ul style="list-style-type: none"> ・1 月 RI 国際大会（台北）はバーチャル開催と決定。 ・国際協議会もバーチャルで開催された。 ・「ロータリー日本 100 年史」発行(6/30)。 ・当初の DEI 声明に代わる“多様性、公平さ、インクルージョン（包摂）”へのコミットメント声明採択（10 月）。タスクフォースの任務を 2023 年 6 月まで延長。 (RI が組織構造と行動規準の抜本の変革推進) <p>2022 年の規定審議会に SRF など関連諸議案が提案される予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DEI 行動規範採択（11 月）

2021 年 10 月 30 日 改訂版

2 ロータリーの理念

(ロータリー理念のルーツを探る)

ロータリーの理念は、ロータリアン共通の目的や指針として、長い年月をかけて形づくられたものです。互いの関係や行動の土台として、世界中のロータリアンがこれらの理念を大切にしています。

ロータリーの理念を学ぶことによりロータリーの理解がより深まります。



セッションの目標

- 「ロータリーの目的」の変遷を振り返り、議論する。
- ロータリーの「中核的価値観」の意義について理解を深める。
- ロータリーの理念に対する理解があなた生き方にどのような影響を及ぼすか、さらに、ロータリーの理念が地域社会や世界にどのような影響を与えるかについて議論する。

セッションの問い

- 1) 「ロータリーの目的」の変遷を振り返りましょう。(資料 3 : P149)
(歴史的なルーツを議論する)

- 2) 現在の「ロータリーの目的」の趣旨と構造を理解しましょう。(資料 1 : P144)

- 3) 「ロータリーの目的」と五大奉仕や7つの重点分野との関係を検証する。(資料 1 : P144、資料 2 : P148)
 - i) 五大奉仕と「ロータリーの目的」の関係
 - ii) 7つの重点分野と「ロータリーの目的」の関係
 - iii) あなたのロータリークラブの実際の活動とロータリー目的を関連付けてください。

4) ロータリーの目的を学ぶことによって、ロータリアンとしてのあなたの認識が変化しましたか？

5) 2007 年 RI は戦略計画を立案し、ロータリーの中核的価値観を発表致しました。

ロータリーにおける中核的価値観の位置づけを議論しましょう。

(パート I セッション 2 資料 3 : 国際ロータリー戦略計画 P15 を参照してください)

6) 1915 年のロータリー倫理訓から始まり、現在のロータリアンの行動規範に至るまでの職業倫理向上運動とロータリーの目的との関係をどのように考えますか？

(資料 1 : P144)

セッション2 資料1

ロータリーの指導原則

ロータリーの指導原則は、ロータリアン共通の目的や指針として、長い年月をかけて形づくられたものです。互いの関係や行動の土台として、世界中のロータリアンがこれらの理念を大切にしています。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにあります。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

OBJECT OF ROTARY

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

First. The development of acquaintance as an opportunity for service;

Second. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society;

Third. The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business, and community life;

Fourth. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional persons united in the ideal of service.

(RIC 4; SRCC 5)

四つのテスト

ロータリアンが生活や仕事の場面で常に覚えておくべき4つの問い、それが「四つのテスト」です。政治や宗教に関係なく、すべての人びとの倫理的指針となるこのテストは、100カ国語以上に翻訳されています。

言行はこれに照らしてから

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

THE FOUR-WAY TEST

Of the things we think, say or do:

- 1) Is it the TRUTH?
- 2) Is it FAIR to all concerned?
- 3) Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- 4) Will it be BENEFICIAL to all concerned?

The Four-Way Test was created in 1932 by Rotarian Herbert J. Taylor, who later became president of Rotary International. (RCP 34.070.)*

* **Reproduction and Use** The sole purpose of any reproduction or use of The Four-Way Test should be to develop and maintain high ethical standards in human relations. The test should not be reproduced in any advertisement intended to increase sales or profits. It may, however, be used on the letterhead or in the literature of a firm, organization, or institution to convey its sincere attempt to conduct itself along the lines of The Four-Way Test. All reproductions of The Four-Way Test should be in the form shown above.

奉仕部門

私たちは、クラブ活動の土台となる5つの奉仕部門を通じて、地域社会や海外での奉仕に力を注いでいます。

クラブ奉仕は、会員同士の関係をはぐくみ、積極的な会員増強計画を実行して、活気あるクラブづくりを行うことです。

職業奉仕は、すべてのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てることで、詳しくは、「職業奉仕入門」と「行動規範」をご参照ください。

社会奉仕は、すべてのロータリアンが、地域の人びとの暮らしを豊かにし、より良い社会づくりに貢献することです。詳しくは、「活動する地域社会：効果的なプロジェクトのための指針」をご参照ください。

国際奉仕は、国際的なプロジェクトでボランティアをしたり、海外のパートナーとの協同活動を通じて、平和と相互理解を推進することです。

青少年奉仕は、インターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)、ロータリー青少年交換などを通じて、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援することです。

ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、

地域 社会や世界中の人びとの生活の質を高める。

4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5. ロータリーの会合、行事、活動においてハラスメントのない環境を維持し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないようにする。
(2019年1月理事会会合、決定119号)

大連クラブのロータリー宣言 1936年

1. 須(すべか)らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。故に吾人は道義を無視して所謂(いわゆる)事業の成功を獲んとする者に与せず。
2. 成否を曰うに先立ち退いて義務を尽くさんことを思い進んで奉仕を完うせんことを念(ねが)う。自らを利するに先立ちて他を益せんことを願う。最も能く奉仕する者最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。
3. 或いは特殊な関係を以て機会を壟断(ろうだん)し、或いは世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博す。これ吾人の最も忌む所なり。吾人の精神に反してその信条を紊(みだる)は利のために義を失うより甚だしきは無し。
4. 義を以て集まり、信を以て結び、切磋し、琢磨し、相扶け相益す。これ吾人団結の本旨なり。然れども党を以て厚くすることなく、他を以て拒むことなく、私を以て党する者にあらざるなり。
5. 徒爾(いたづら)なる角逐(かくちく)と鬭争とは世に行われるべからず。協力以って博愛平等の理想を実現せざるべからず、然り我が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す、吾がロータリーの崇高なる使命茲に在り。その存在の意義又茲に在す。

(満州大連クラブの古沢文作氏が「ロータリーの綱領」と「職業倫理訓」の真髓を表現したものの。)

ロータリアンの職業宣言

(Declaration for Rotarians in Business and Professions)

1989年

1989年の規定審議会は次の職業宣言を採択しました。事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

- 1) 職業は奉仕の一つの機会なりと心に銘せよ。
- 2) 職業の倫理的模範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し、名実ともに忠実であれ。
- 3) 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
- 4) 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし。

- 5) 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
- 6) 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
- 7) 広告に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うに当たっては、正直専一なるべし。
- 8) 事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めず、また与うることなかれ。

国際ロータリーの使命 (Mission of Rotary International)

国際ロータリーの使命は、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務および地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進することである

国際ロータリーの標語 (MOTTO OF ROTARY INTERNATIONAL)

「超我の奉仕」 (Service Above Self)

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」
(One Profits Most Who Serves Best)

Rotary's new vision statement ビジョン声明 (Vision Statement)

2017年6月理事会

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な変化を生むために人びとが手を取り合って、行動する世界を目指しています。

Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change—across the globe, in our communities, and in ourselves.

セッション2 資料2

重点分野

地元地域や世界のために、持ちうるリソースを最大限に生かしたい。そう願うロータリーは、これまでの長年の経験から、もっとも大きく、持続可能なインパクトをもたらすことをめざして活動しています。

- 平和の推進
- 疾病との闘い
- きれいな水の提供
- 母子の健康
- 教育の支援
- 地元経済の成長
- 環境の保護

平和の推進

紛争の予防・仲裁や難民支援に当たる人材を育て、異文化間の交流と対話を促すことで、平和な世界づくりを目指しています。

疾病との闘い

命を脅かす病気（ポリオ、エイズ、マラリアなど）について正しい知識を伝え、発展途上国で低額または無料の医療を提供するなどして、病気の予防と治療を支援しています。

水と衛生

「ただ井戸を掘って終わり」ではなく、きれいな水や衛生設備を活用して長期的な地域発展が実現できるよう、包括的な支援を行っています。

母子の健康

世界では毎年、5歳未満の子ども600万人近くが、栄養失調、不健康、不衛生のために命を落としています。ロータリーは、質の高い医療によって母と子の健康を守っています。

教育の支援

世界で読み書きのできない人（15歳以上）は、7億7500万人。ロータリーは、より良い学校をつくり、教育における性差別をなくし、成人への識字教育に力を注いでいます。

地域経済の発展

生産的で十分な収入をもたらす雇用の機会の創出を通じて人びとの自立を促し、発展途上地域の（特に女性による）起業を応援しながら、リーダーとなる人材を育てています。

環境の保護

ロータリー会員は、プロジェクトを立ち上げ、つながりを生かして政策や方針の変更を促し、未来を形づくる計画を立てます。環境問題においても同じアプローチで取り組んでいます。

セッション2 資料3

「ロータリーの目的」の変遷

1906年1月	シカゴ・ロータリークラブ定款が初めて制定される。この時点では目的（綱領）を兼ねた僅か二箇条に纏められた定款であった。 第1条 本クラブ会員の事業上の利益の増大 第2条 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進
1906年12月 (1907年1月という説もある)	定款に第3条「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」が追加された。
1910年	全米16クラブの連合体として全国ロータリークラブ連合会が結成され、最初のロータリーの目的（綱領）が制定された。 ＜ロータリーの目的（綱領）1910年＞（5項目の綱領） 1. アメリカ全土に加盟ロータリークラブを結成することによって、ロータリーの原則を拡大発展させること 2. アメリカ全土の加盟ロータリークラブの業務と原則を統一すること 3. 市民としての誇りと忠誠心を喚起しかつこれを奨励すること 4. 進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること 5. 加盟ロータリークラブの個々の会員の事業上の利益を増大すること
1912年	アメリカ以外の国にロータリーが拡大され、連合会の名称が、国際ロータリークラブ連合会と変更されたことを機会に、目的（綱領）が抜本的に改正されると共に、この年度から、国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領）とロータリークラブの目的（綱領）とに分離された。 ＜国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領）1912年＞ 1. ロータリーの原則を標準化し、全てのロータリークラブが地元の事情に適應する範囲で、それを採択するように奨励すること 2. 世界の全ての商業中心地にロータリークラブを結成するように奨励推進すること 3. 既存するロータリークラブの活動と、在籍する会員および地域社会に対するクラブの価値を研究し、その結果得られた情報を全てのロータリークラブに明示すること 4. 広い友愛の精神と、各国各都市の事業および専門職種に従事するロータリアンと、加盟クラブの間の利益の調和を推進すること ＜ロータリークラブの目的（綱領）1912年＞ 1. すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各会員の職業を社会に対する奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること 2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めるよう奨励すること 3. 構想や事業運営方法の交換によって各会員の能率を増進すること

	<p>4. 奉仕の一つの機会として、また成功への道として、情理ある交友関係を推進すること</p> <p>5. 公共の福祉に対する各会員各自の関心を促し、かつ市の発展のために他の人々と協力すること</p>
1915 年	<p>標準クラブ定款および模範クラブ細則が採用されると共に、国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領）およびロータリークラブの目的（綱領）の一部が改正された。 （連合会 4 項目 ロータリークラブ 6 項目）</p> <p><国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領） 1915 年 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロータリーの原則および活動を標準化し、普及すること 2. 世界の全ての商業中心地にロータリークラブを結成するように奨励、推進、監督すること 3. 既存するロータリークラブの活動と、在籍する会員および地域社会に対するクラブの価値を研究し、その結果得られた情報を全てのロータリークラブに明示すること 4. 偏見のない親睦の精神をロータリアン同士およびロータリークラブ間に推進すること <p><ロータリークラブの目的（綱領） 1915 年></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各会員の職業を社会に対する奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること 2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めるよう奨励すること 3. 構想や事業運営方法の交換によって各会員の能率を増進すること 4. 奉仕の一つの機会として、また成功への道として、情理ある交友関係を推進すること 5. クラブの地域社会の公共の福祉に対するクラブ会員の関心を高め、かつ、市、社会、商工業の発展のために他の人々と協力すること 6. 同僚や社会一般のために奉仕したいという意欲を起こすよう会員を鼓舞すること
1918 年	<p>カンザス・シティ大会において、国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領）のみが、次のように改正された。</p> <p><国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領） 1918 年></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界中のすべての商業中心地にロータリークラブを結成するよう奨励し、推進し、監督すること 2. 地方的活動ではなく、全加盟ロータリークラブの仕事および活動を調整し、標準化し、かつ全般的に指導すること 3. 国際連合会自身の活動を通じ、また加盟ロータリークラブを通じて次の事項を鼓吹し育成すること <ol style="list-style-type: none"> a. 実業および専門職種における高い道徳的水準 b. すべての尊敬すべき事業の基礎としての奉仕 c. 地域社会の市民、商業、社会の繁栄および道徳の高揚に対する全ロータリアンの積極的関心 d. 成功を助け、かつ奉仕の一つの機会として広範な交友関係の増進 e. ロータリアンの能率と有用性を高める手段として、構想および

	<p>事業運営方法の相互交換</p> <p>f. すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各ロータリアンの職業を、社会への奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること</p> <p>4. 専ら全ロータリアンのみの使用と利益のために、国際ロータリーの徽章、その他の記章を創案し、採択し、保存すること</p>
1919年	<p>ソルトレーク・シティ大会で、標準ロータリークラブ定款が改正され、ロータリークラブの目的（綱領）と国際ロータリークラブ連合会の目的（綱領）とが統合された。（4項目）</p>
1921年	<p>エジンバラ大会で、アメリカ本土を離れて始めてスコットランドで国際大会が開催されたことを記念して、目的（綱領）に国際奉仕に関する条文が加えられた。（5項目）</p> <p><ロータリーの目的（綱領） 1921年></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界中のすべての商業中心地にロータリークラブを結成するよう奨励し、推進し、監督すること 2. 地方的活動ではなく、全加盟ロータリークラブの仕事および活動を調整し、標準化し、かつ一般的に指導すること 3. 国際連合会自身の活動を通じ、また加盟ロータリークラブを通じて次の事項を鼓吹し育成すること <ol style="list-style-type: none"> a. 実業および専門職種における高い道徳的水準 b. すべての尊敬すべき事業の基礎としての奉仕 c. 地域地域社会の市民、商業、社会の繁栄および道徳の高揚に対する全ロータリアンの積極的関心 d. 成功を助け、かつ奉仕の一つの機会として広範な交友関係の増大 e. ロータリアンの能率と有用性を高める手段として、構想および事業運営方法の相互交換 f. すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各ロータリアンの職業を、社会への奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめること 4. ロータリーの奉仕の理想に結ばれた、あらゆる国の実業人と専門職業人の親交を通じて国際間の平和と親善の推進に助力すること 5. 専ら全ロータリアンのみの使用と利益のために、国際ロータリーの徽章、その他の記章を創案し、採択し、保存すること
1922年	<p>ロスアンゼルス大会において、国際ロータリークラブ連合会が、国際ロータリーと改称され、定款、細則が抜本的に改正されたことに伴い、ロータリーの目的（綱領）も大幅に改正された。（6項目）</p> <p><ロータリーの目的（綱領） 1922年></p> <p>ロータリーの目的（綱領）は次の事項を奨励かつ育成するにある</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての尊ぶべき事業の基礎として奉仕の理想 2. 実業および専門職業の道徳的基準を高めること 3. ロータリアンすべてがその個人、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること 4. 奉仕の機会として知り合いを広めること 5. あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること

	<p>と、そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること</p> <p>6. ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、理解、親善と国際間の平和を増進すること</p>
1935 年	<p>1927 年のオステンド大会で、目標設定計画 Aims and Objects Plan に基づく四大奉仕の分割が決定したことから、1935 年、メキシコ・シティ大会において目的（綱領）が変更され、四大奉仕に対応した項目に整理された。前文と、四箇条の本文から成る（ロータリーの目的（綱領）となった。</p> <p><ロータリーの目的（綱領） 1935 年></p> <p>ロータリーの目的（綱領）は尊ぶべき事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 奉仕の機会として知り合いを広めること 2. 実業および専門職業の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識をふかめること。そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること 3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること 4. 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること
1951 年	<p>アトランティック・シティ大会において、国際ロータリーおよび標準ロータリークラブ定款が改正され、Objects of Rotary が Object of Rotary と単数に改められ、従来の四ヶ条の目的（綱領）が一ヶ条の本文と四つの付随項目に変更され、今日に至っている。</p> <p><ロータリーの目的（綱領） 1951 年 ></p> <p>ロータリーの目的（綱領）は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 奉仕の機会として知り合いを広めること 2. 事業及び専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること 3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に、常に奉仕の理想を適用すること 4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門業務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること <p>現在の日本語訳（2012 年 日本訳のみ変更）</p> <p>ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること； 第 2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；

	<p>第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；</p> <p>第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。</p> <p>主な、訳語の変更点は、以下の通り。</p> <p>「綱領」を「目的」 「奉仕の理想」を「奉仕の理念」 「有益な事業」を「意義ある事業」 「世界的親交」を「世界的ネットワーク」に変更</p>
--	---

目的（綱領）の翻訳については参考訳となっています。

出典：田中毅 PDG ロータリーの源流

ロータリーの目的（綱領）日本語訳の歴史

- 1921年 東京ロータリークラブが承認された当時の通信はすべて英文だった。
- その後、各地にロータリークラブが誕生。
- 1926年 大阪で開催された第1回全日本ロータリークラブ連合懇談会の議題に翻訳が取り上げられた。当時の邦文綱領はその後の公式訳文とは少し異なっていた。（例えば、奨励という言葉だったのが、後に鼓吹となった）
- 1928年 朝鮮、満州を合わせて第70地区として、RIより正式承認を受ける。
- 1934年 神戸ロータリークラブから、外国語のロータリー用語を廃止し、例会運営の外国模倣をやめて日本式に変え、ロータリーの綱領を解り易い日本語に変えようとする運動が起こる。
- 1936年 神戸で行われた地区大会で、大連ロータリークラブのロータリー宣言[大連宣言]を採択して、これを「ロータリーの綱領」に換えようという動議が提出され、大激論となる。
- 1939年 日本は朝鮮、台湾、満州を含む三地区（70・71・72）に分割され、その三地区の統轄機関として日満ロータリー連合会が結成された。
この連合会結成は、軍部の矛先をかわすために考えた最後の手段であり、米山梅吉より全権を委譲された芝染太郎【日本ロータリー史上最悪の受難期とされる1938～40（昭和13～15）年代に、日本のロータリークラブの「専任幹事」を務めた人。愛媛県の吉田出身で、東京RC会員。「英語の達人」であり、昭和初期には『Japan Times』の社長でもあった。1939年6月には、全権を委任され、一人アメリカのクリーブランド国際大会に出席。得意の英語を駆使して、日本ロータリーの生き残りを賭け「日満ロータリー連合会」を誕生させたことで知られる】が、密かに短刀を懐にしてチェス・ペリーとの交渉に臨んだ。
- 1940年 日本のロータリークラブはRIを脱退。

1949年「RIの定款・細則の厳守」、「RIへの義務の完全履行」、「各クラブはそれぞれRIに直結しているので、クラブが地区や国単位で固まって行動を起こさない」ことを誓約して、日本のロータリーはRIに復帰を許される。

1957年 手島知健RI理事【1952-54年度RI理事（日本人で3人目）。東京RC会員。あふれる国際性と洗練された物腰をもつ彼は、戦後、日本ロータリーが再出発したときの、大きなけん引役となった。かつて、RIの日本語翻訳決定権は彼に委譲されており、「四つのテスト（The Four-Way Test）」の翻訳をとりまとめ、定訳をつけたことでも知られている】に対して邦訳の決定権がRIより委譲されたが、同氏が病に倒れられてから宮脇 富氏に引き継がれ、現在の邦文はお二人の手になるものと言われている。
かつての京都・大阪（365）地区の地区大会懇談会で京都クラブが翻訳等について宮脇会員を前に幾多の指摘をしたという記録があるという。お二人のRI理事の手で翻訳された定款の原文は、1951年版の現行の条文である。

1970年7月

英文学者、弁護士、通信社、実業家の錚々たるロータリアンが集まり、会議を重ねて、日本語版手続要覧の邦文となる。

1985年頃

第4項のロータリアンを指し示す言葉の表現に変更が加えられている。
1970年、85年の邦文修正はどんな経過により、どんな手続きを経て行われたものかは不明。

2001年3月

当時の文献邦訳諮問委員は、佐藤千壽（東京東）、近藤正夫（東京城北）、津田進（川崎北）、土屋亮平（松戸）の各氏であったが、毎日発信される膨大な量の情報を翻訳する態勢は整っておらず、「RIのテーマ」や定款・細則の基本的な部分だけを担当していた。当時、その他の手続要覧、理事会や財団管理委員会議事録、国際協議会や各種会合の報告書等は、RI本部の日本語担当者（RI本部日本語課）が直接翻訳していた。

2012年1月

2010年ガバナー協議会・綱領等翻訳問題調査研究小委員会が設置され、約2年間の検討を経て、ロータリーの目的（綱領）の新しい日本語訳が日本のRI理事、ガバナー会、ガバナー協議会に提出され、その後、正式な日本語訳となった。ただし、1951年以来、英語の Object of Rotary（ロータリーの目的）自体は一度も変更されていない。

カリキュラム委員会編集

参考：田中毅 PDG ロータリーの源流
山片重房氏（東大阪みどり RC）

3 ロータリーの新しい流れ

2005年に誕生100年を迎え、国際ロータリーは新しい方針を出し、変化し始めています。

2007年にRIの戦略計画が発表され、現在では行動計画になっています。ロータリー財団は新しい補助金モデルを開始(2013年)し、補助金システムが変わりました。2016年規定審議会では、クラブ運営の大幅な柔軟性が導入されました。2019年規定審議会ではローターアクトの地位向上が決まり、2020年にはDEIが提唱されました。2018年にロータリー未来形成(SRF:Shaping Rotary's Future)委員会が設置され新しいロータリーのガバナンスモデルが検討されています。



セッションの目標

- RIの行動計画が何故重要なのか議論し理解する
- ロータリー財団の補助金システムの目指しているものを議論し理解する。
- DEIがどんなものなのか理解する。
- 今後のローターアクトクラブとロータリークラブの関係を議論する。
- ロータリー未来形成(SRF:Shaping Rotary's Future)委員会の新しいロータリーのガバナンスモデルを議論する。

セッションの問い

- 1) 行動計画はロータリークラブに何をもたらしますか？
また、クラブはどのように対応するべきでしょうか。
- 2) ロータリー財団の補助金をクラブは、ロータリアンはどのように利用するのか議論しましょう。(パートI～パートIIIまでの財団の資料を参照してください。: P20～23, P68～83, P109～111)
- 3) DEI(多様性: Diversity、公平さ: Equity、インクルージョン: Inclusion)はロータリーに何をもたらすのか
- 4) ローターアクトクラブの地位向上に、ロータリークラブがどう対応するか議論する。
 - ・2019年以降のローターアクトクラブの地位向上の進展を理解する。
- 5) RIはなぜ、ロータリーの未来形成を検討しているのかを考えてみる。
 - ・地域化(Regionalization)の目指すものは何でしょうか。
 - ・中間管理組織を再編成する目的は何でしょうか。
 - ・SRFでクラブにどんな影響がありますか。

セッション3 資料1

戦略計画委員会からのメッセージ

RI 理事、および戦略計画委員会元委員長 ステファニー A. アーチック

2年前(2017年)に新たなロータリー戦略計画の立案に乗り出したとき、私たちが一番最初にしたこと、それは自分自身を見つめることでした。変わりゆく世界という現実を見据えながら、厳しい問いを自身に投げかけ、徹底的な自己評価を行ったのです。「ロータリーの現状はどうか」「ロータリーはどうあるべきか」「どうありたいのか」。こうした問いへの答えに対するギャップを明らかにした上で、私たちは、フォーカスグループ(座談会)やアンケート調査を通じて100万人以上の会員の意見をうかがいました。戦略計画に含まれている各目標は、ロータリーがビジョンを実現できるようにしたいと願うリーダー、会員、ロータリー参加者の方々からのフィードバックに基づいています。熱意と洞察をお寄せくださった皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。

ロータリーの新しい戦略計画は、これまでの計画とは異なっています。新しい計画には、力強い未来を協力して築くことへの行動を促す「行動計画」が含まれています。この計画を通じて、行動人が手を取り合い、価値観を同じくする者同士がつながり、世界と自分自身の中に持続可能な変化を生むために活動することで何が可能となるかを、私たちが認識することができます。

この計画は、ロータリーの伝統や価値観を払拭しようとするものではありません。その目的は、組織を強化することでロータリーの価値観を今後もずっと守ること、効果的な方策を用いることであらゆるレベルで組織を強化すること、ロータリーに参加するすべての人が有意義で価値ある経験ができるようにすること、そして、より大勢の人の暮らしと地域社会をより良くすることです。

私たちは、世界により大きなインパクトをもたらす、参加者の基盤を広げ、参加者の積極的なかかわりを促し、適応力を高めて革新的になることを目指しています。今後数年間、これらの目標を達成するための数々のイニシアチブを模索、実施していきます。この行動計画はロータリーのビジョン実現に向けた国際ロータリーと組織全体の活動を主眼としていますが、その多くはクラブと地区のレベルにも当てはまります。

このため、各クラブでもこの行動計画と同じ優先事項を掲げていただくことが大切となります。クラブの計画を立てる際には、これらの優先事項とその概念を考慮してください。クラブを、そして会員の体験をできる限りベストなものに近づけるにはどうすればよいか考えてください。

クラブが地域社会に大きなインパクトをもたらす方法を考えたら、戦略計画立案ガイドをぜひご活用ください。クラブが独自の行動計画を立てる際、この資料を参考にすることで、ロータリー全体の優先事項と足並みをそろえ、共通目標を支えることができるでしょう。現会員や地域社会の人びとの参加を最も効果的に増やすため、各クラブの事情やニーズに合った行動計画を立ててください。私たちはロータリーの行動計画を実行するにあたり、大胆かつ野心的でありたいと考えています。クラブでも同じ姿勢で取り組んでいただけることを願っています。

この行動計画は皆さまからのお力を借りて形づくられたものです。この行動計画の下、力を合わせ、将来により良い世界を築くためにロータリーが大胆に取り組んでいくことができるでしょう。

ビジョン声明

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しております。

Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change—across the globe, in our communities, and in ourselves. (2017年6月決定)

行動計画 (Action Plan)

この計画は、年度から年度へのビジョンの継続性をもたらし、共通目標の達成に向けた前進を可能とします。これが私たちの行動計画です。

私たちは「世界を変える行動人」として、強い目的意識を共有しています。

一世紀以上前、私たちは、人と人とのつながりを礎とする奉仕のリーダーシップという新しいモデルの先駆けとなりました。今日、このつながりは、世界に広がるネットワークとなって文化間、言語間、世代間、地域間に橋を渡し、より良い世界のビジョンを分かち合っています。

私たちは行動人として、このビジョンの実現には計画が必要であることを知っています。2024年までのロータリーの計画は、「より大きなインパクトをもたらす」、「参加者の基盤を広げる」、「参加者の積極的なかかわりを促す」、「適応力を高める」ことです。

行動計画の詳細

優先事項1：より大きなインパクトをもたらす (Increase our Impact)

行動人として、私たちは証拠に基づいて決定します。

奉仕プロジェクトから得られるデータをより効果的な方法で定義、測定、記録、分析するために必要な慣行、インフラ、能力を築いていきましょう。

優先事項2：参加者の基盤を広げる (Expand our reach)

行動人として、私たちはインクルージョンと積極的な参加を促し、世界に対する思いやりとビジョンを持っています。

新しい対象層の人たちとロータリーの価値観を共有し、仲間を募ってロータリーの力を体験してもらおう新しい方法を生み出し、ロータリーがインクルージョンと参加を促しながら思いやりをもって世界のために大きな目標を掲げる団体であること実証していきましょう。

優先事項3：参加者の積極的なかかわりを促す (Enhance participant engagement)

行動人として、私たちは、時代や国を超えた関係を培います。

個人として、また地域社会の一員としてロータリーとともに何ができるのかを、あらゆる機会に伝えていきましょう。

優先事項4 適応力を高める (Increase our ability to adapt)

行動人として、私たちはロータリーを強化し、末永く続く変化をもたらす新しい視点や考え方を追求します。

地域社会によりよく奉仕するために、調査と革新を促し、リスクを恐れない文化を育てていきましょう。

セッション3 資料2

多様性、公平さ、インクルージョン（包摂）

Diversity, Equity, and Inclusion

ロータリーは、すべての人と尊厳と尊重をもって接し、あらゆる人の声に耳が傾けられるようにし、親睦、奉仕、リーダーシップの公平な機会を設けることに力を注いでいます。

ロータリーの会員は、ロータリーが多様で、公平で、インクルーシブな組織となることを望み、またそうあるべきであると考えています。ロータリーは、開放的なコミュニケーションを育み、学びあい、支えあうことのできる環境を作りだすことに全力を傾けています。国によってロータリーでの体験は異なるかもしれませんが、不平等や偏見を生み出す力関係、歴史、構造は世界中に存在します。多様性、公平さ、インクルージョンは、世界的に重要な問題です。

国際ロータリー理事会とロータリー財団管理委員会は、多様性、公平さ、インクルージョンの原則を採用し、ロータリーはあらゆる言動においてこれらの原則に従うための行動を起こしています。多様で、公平で、インクルーシブな組織となることで、ロータリーでの会員の体験がより充実したものとなり、より有意義で効果的な奉仕プロジェクトの実施が可能となり、ロータリーに参加したいと望む人たちにとって魅力のある開放的・歓迎的な環境を築くことにつながります。

実践のためのガイドライン

国際ロータリー理事会は、ロータリーの文化にこれらの価値観をしっかりと組み入れるため、ロータリー内の DEI の状況評価および包括的計画の作成にあたる「多様性・公平さ・インクルージョン（DEI）タスクフォース」を設置しました。タスクフォースは、ロータリーで初となる「多様性・公平さ・インクルージョンに関する調査」で世界 31,000 人の会員から集めた回答を基に、計画を作成しました。

ロータリーのコミットメントに関する声明

2021 年、国際ロータリー理事会は、DEI タスクフォースの協力の下、2019 年に採択した「多様性、公平さ、インクルージョンに関するロータリーのコミットメントの声明」をさらに強化しました。

DEI の行動規範

理事会は、ロータリーの中核的価値観を反映した新しい DEI の行動規範を承認しました。この行動規範は、誰にとっても協力的で、前向きで、健全な環境をロータリー会員が築き、維持するのを支える枠組みとなるものです。

クラブで多様性、公平さ、インクルージョンを推進する方法

多様性、公平さ、インクルージョンに詳しい地元の専門家を例会に招き、卓話をしてもらう。DEI の取り組みを支援する団体とつながり、プロジェクトやイベントを共同で行う。役割を任命する際には新しい人を起用し、こうした役職に含まれることの少ない人（若い人、会員歴の短い人、学友など）にリーダー職を勧める。

多様性、公平さ、インクルージョンについて対話をする。このような対話は気まずさや個人的な事柄を伴う場合があることを認めた上で、皆が学び、互いに耳を傾け、尊重する姿勢を身につける機会になるという共通の理解を築く。クラブに DEI 委員会を設置し、委員を人選する際には地域社会を反映させることを念頭に入れる。委員会は、地元市民とともに、学び、分かち合い、奉仕できる機会を特定する。

多様性、公平さ、インクルージョンに関する ロータリーのコミットメント声明

2021年6月理事会

「多様性」は、長年にわたるロータリーの中核的価値観であり、これからも私たちが互いに、そして地域社会と接する際の礎となるものです。ロータリーの組織文化がすべての側面でDEIを反映し、体現するようにするには、まだ多くのことを学び、実行しなければならないと私たちは理解しています。

RI 理事会は6月の会合にて、DEI タスクフォースからの指針に基づき、ロータリーが採択した2019年のDEI（多様性、公平さ、インクルージョン）声明の見直しと強化を行い、ロータリーが組織として多様性、公平さ、インクルージョン（包摂）の原則を尊重し、実践するためのさらなるステップを取りました。その結果として新たな「多様性・公平さ・インクルージョン（包摂）へのコミットメント」(a new Commitment to Diversity Equity and Inclusion) が下記の通り採択されました：

「ロータリーで私たちは、持続可能な良い変化を生むために人びとが手を取り合って行動する世界というビジョンの実現には、多様性があり、公平で、インクルーシブ（包摂的）な文化を培うことが不可欠であると理解しています。

私たちは多様性を重んじ、すべての背景、年齢、民族、人種、肌の色、障害、学習スタイル、宗教、信条、社会経済的立場、文化、婚姻状況、使用言語、性別、性的指向、ジェンダー自認だけでなく、異なるアイデア、考え、価値観、信念を持つ人びとによる貢献を大切にします。

ロータリーへの入会、参加、リーダーシップの機会といった面で、歴史的に特定のグループの人びとが障壁に直面していたという点を認識し、すべての人が成功のためのリソース、機会、ネットワーク、支援への必要なアクセスを得られるよう、地域社会でのパートナーシップも含め、ロータリーのあらゆる側面で公平さを促進していくことに私たちは全力を注ぎます。

私たちは、すべての人が目に見える、または目に見えない本質的に独自の資質を備えていると信じています。また、自分が大切にされているとすべての人が感じ、帰属意識を持てるようなインクルーシブな文化を築くことに尽力します。

高潔性というロータリーの価値観に従い、DEI（多様性、公平さ、インクルージョン）にいたる旅路において組織として自分たちがどこにいるのかを正直かつ透明性をもって見据えるとともに、これからも学び、向上し続けていくことに全力を尽くします。」

DEIの行動規範

ロータリーの中核的価値観：親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ

この行動規範は、ロータリーの中核的価値観を反映したものであり、ロータリアンおよびローターアクター（世界ほぼすべての国におり、100以上の異なる言語を話す会員）であることに伴う責任を説明したものです。ロータリー会員はこの規範を守り、組織の成長とともにこの規範を発展させていくことに真摯に取り組んでいます。

中核的価値観と同じく、ロータリアンとローターアクターが、互いに、そしてロータリープログラム参加者、学友、プロジェクトのパートナー、地域社会の人びとと接する際に、この行動規範を身をもって示すことが求められます。

この行動規範は特に、すべてのクラブ、地区、ゾーン、国際ロータリーの会合、研修、行事をはじめ、会員がロータリーを代表するあらゆる場において、および My ROTARY とソーシャルメディアにおいて適用されます。

期待事項

すべてのクラブ会員、およびロータリープログラムの参加者、学友、プロジェクトのパートナー、ロータリー代表者を含む参加者は、この行動規範を遵守し、他者に配慮し、誰もが尊重され大切にされる協力的かつ前向きで健全な環境に寄与することが求められています。

他者を尊重する言葉を使う

- 初対面の人には自己紹介をし、希望する人称代名詞（he/him/his, she/her/hers, they/them/theirs）など、自分を指す際にどのような言葉が使われることを望むかを説明する。人の呼び方は、言いやすいニックネームではなく、本人が希望する名前で呼ぶ。
- 大勢のグループの前で話す際には、ジェンダーの前提を避けるために、中性的な言葉を使う。
- 相手への理解を深めるために、アクティブリスニング（積極的傾聴）を実践する。
- 言葉の使い方を意識し、地域にあわせて順応させる。ある言葉遣いが、文化によって容認される場合もあれば、容認されない場合もある。
- 文化によって翻訳不可能な俗語・隠語や慣用句の使用を避けたり、その意味を丁寧に説明したりすることで、ロータリーの多様な文化と言語を共有する
- わかりやすく話し、すべての人が理解できない可能性のある略語や専門用語は避ける。
- 相手の文化的背景、信仰、性的指向、ジェンダー、その他の特性に関心がある場合には、こうした情報を共有することに抵抗がないかどうかを尋ねる。そのトピックが会話の内容と関連がない場合、尋ねるのを控える。
- 世代間の対話を促す雰囲気は助長し、人を年齢で言い表すのを避ける。

サポートを示す

- 他者の味方・擁護者となり、必要だと思われる場合には介入する心構えをもつ。
- 不適切な行為を見たり聞いたりした場合、その影響を受けた人をサポートする形でその行為に対処する。
- ロータリー会員としてこの行動規範を守り、これに沿った文化をクラブで築き、問題が起きた場合はこれに対処する。

温かく迎えるインクルーシブな環境を助長する

- バリアフリー対策ができていない会場、同時通訳、字幕、および／または筆記、そのほかのリソースを必要に応じて提供することによって、直接対面式またはオンラインで実施するいかなる会合、行事、活動にも、すべての会員と参加者が全面的に参加できるようにする。
- クラブまたはプログラムの慣習を見直し、特定のグループに対して侮辱的または排他的な活動は中止または変更する。
- 温かく迎える環境をつくり、対話、プロジェクト、行事にすべての人を含める。
- 可能な限り、アイコンタクト、表情、口調、個人空間、ジェスチャー、(体の)姿勢といった非言語的なコミュニケーションに注意を払い、それがいかに人と接する能力や共感する能力に影響するかを意識する。
- さまざまな宗教における重要な日を認識し、それらの慣習に従っている人びとが参加できるように配慮した形で行事や活動の予定を組む。
- 人の食事制限や健康上の制限について知っておく
- クラブと地区でリーダー的役割を担う機会をすべての人に開く。または、地域社会のパートナー団体と関わりあう。

多様性を重んじる

- 障害者に対するクラブでの認識、理解、受容を高める。
- 一つの文化や宗教と関連する奉仕プロジェクトや行事ばかりを実施するのではなく、多様な文化や宗教の行事を祝う。
- 多様性と関連する重要な日を認識し、尊重する。
- 特定の人びとを固定概念にあてはめたり、からかったりすることを避ける。
- 異なるジェンダーを認識し、尊重する。

行動規範に関する質問と懸念

行動規範に関する質問や懸念、または行動規範に反する行為があったと感じた場合、Eメールでご連絡ください (DEI.Inquiries@rotary.org)。

成人ハラスメントの問題

ロータリー章典に従い、ロータリーは現在、会合、行事、活動においてロータリアンまたはローターアクターがかかわるハラスメントの問題を報告するための以下の方針を定めています：

ロータリーは、いかなる形のハラスメントもない環境を維持することに力を注いでいる。ハラスメントとは大まかに定義すると、個人またはグループを、あらゆる特性 1 (年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会経済的地位、文化、性別、性的指向、または性自認) に基づいて、言葉であれ身体的であれ、中傷、侮辱、または攻撃する言動を指す。

成人がかかわるハラスメントのいかなる申し立てについても通知を受けた場合、またはハラスメントを受けたと感じた場合、以下のステップに従ってください：

1. 身の安全が脅かされていると感じる場合は、警察に相談する。
2. クラブ役員 (クラブ会長または幹事)、地区リーダー (地区ガバナーまたは地区ガバナーエレクト)、あるいはゾーンのリーダー (RI 理事) に通知する。
3. 問題について国際ロータリーのクラブ・地区支援室 (cgs@rotary.org) に報告する。
4. 青少年がかかわるハラスメントまたは虐待の申し立てはすべて、72 時間以内に国際ロータリーに報告 (youthprotection@rotary.org) しなければならない。

(ロータリー章典「会合、行事、または活動におけるハラスメントのない環境」から引用)

セッション3 資料3

ローターアクトの方針に関する変化の経緯

- 2014年10月 理事会は、ローターアクターのRI人頭分担金を支払うことを規定する件を2016年規定審議会提案として決定。その後、2015年1月理事会で取下げ。
- 2015年1月 理事会は、ローターアクトクラブと言う若者のためのクラブを設立し、人頭分担金を課す件を2016年規定審議会提案として一時承認後、再度取下げ。
- 2016年4月 2016年規定審議会がローターアクターが正会員となることを認めることを採択。(2重会員が認められる)
- 2018年1月 理事会はPETSや地区研修会議にアクトクラブの代表者を派遣することを推奨し、その費用をロータリークラブや地区が支援すること奨励。
- 2018年4月 2019年国際協議会にアクト代表を公式に招待すること(60名)を決定。
- 2018年10月 理事会は、地域リーダー(ARC、ARRFC)に現・元アクター任命を推奨。さらに、財団補助金をアクトクラブが申請でき、またアクト会員の財団への寄付の新たな認証制度設けることをTRFに要請。
- 2019年4月 2019年規定審議会(修正動議)で、ローターアクトクラブのRI加盟が承認。
- 2019年4月 理事会は、ローターアクトクラブが新たにインターアクトクラブを提唱でき、ること、大学を基盤としたローターアクトクラブと地域社会を基盤としたローターアクトクラブを独自の参加戦略を持った別のロータリープログラムとして分離すること、さらにローターアクトの年齢制限を削除することなどを検討することを決定。
- 2019年4月 管理委員会はローターアクトの寄付認証を承認。少なくとも5名のローターアクトクラブ会員が50米ドル以上を寄付する場合、財団から特別な感謝状がクラブに贈られる。
- 2019年7月 理事会はローターアクト地位向上タスクフォースを設置し、下記を検討。
- ・ ローターアクトの人頭分担金の検討(金額と時期)
 - ・ 財団プログラムへのローターアクトの参加
 - ・ コミュニケーションと変更管理計画
 - ・ ロータリー章典41.040節(また関連する節)の見直し
 - ・ ローターアクトの状況変化でもたらされるその他すべてテーマ
- 2019年10月 ローターアクト定款の変更。2020年7月より有効(年齢制限廃止など)
- ・ 提唱クラブなしのローターアクトクラブ結成を可能にする。
 - ・ ローターアクトクラブを提唱クラブとするローターアクトクラブの結成を可能にする。
 - ・ ローターアクトの年齢上限を解除する(ただし若い成人のプログラムとして維持する)。
 - ・ すべての地区委員会にローターアクターを加えることをロータリー地区に強く奨励する。
 - ・ ローターアクターの人頭分担金の額を設定するためを引き続き検討する。
 - ・ 2021年7月1日付で新しいローターアクトクラブの加盟金50米ドルを廃止する(ローターアクト人頭分担金が設定された場合)。
 - ・ RI委員会のアドバイザーとしてローターアクターを任命するよう今後のRI会長に奨励する。
 - ・ ロータリーとローターアクトのクラブ管理とコミュニケーションを

- より容易にする携帯アプリの開発を模索する。
 - ローターアクトに関して以下の目標を設定する：
 - 2022年までに、報告されたローターアクターの数を100パーセント増やす
 - 2022年までに、報告されたローターアクターのうち、ロータリークラブに入会する人の数を20%増やす
 - 2029年までに、報告されたローターアクターの数を100万人に増やす
 - ロータリー章典 アクトクラブの記述が大幅変更(2020年7月より有効) スポンサー、会合や活動、研修などすべての項目が新たになった。
- 2020年1月 理事会は、**2022年7月1日よりアクターの人頭分担金徴収8ドル決定。(ただし、大学基盤のクラブは5ドル)。**
年齢上限撤廃については、更にそれを明確化し、クラブ細則で上限を定めることができ、義務化しないことに修正。
- 2020年6月 2022年7月1日付で、ローターアクトクラブが**グローバル補助金プロジェクトで援助国側提唱者または実施国側提唱者になること**(ただし、ローターアクトクラブがグローバル補助金で以前にロータリークラブと一緒に活動したことがあることを条件とする)を許可することに同意。
- 2020年11月 標準ローターアクトクラブ定款を改正し、**ローターアクトクラブに名誉会員をおくことができ**(会員が2つ以上のローターアクトクラブの名誉会員に選ばれることを認める)また、**ローターアクトクラブが衛星クラブを設置できる**事が決定。さらに、新ローターアクトクラブ設立のための12人という創立会員の推奨人数を奨励することが決定された。
2022年規定審議会に、**ローターアクターがRI委員会委員を務めることができる件とRI審議会でローターアクターが代表議員となることを規定する件**を理事会提案とする。
- 2021年4月 現・元ローターアクターに対し、既存ロータリークラブへの入会を促進するか、または、将来の新クラブ設立を支援する戦略を立てるよう、地区ローターアクト委員長ならびに地区会員増強委員長に奨励しました。
- 2021年11月 **アクターのロータリーへの完全一体化を進める**ことが理事会で決定。
章典に、**ロータリークラブとローターアクトクラブの両方が、新しいロータリークラブを提唱することができる**が追加される。
- 2022年1月 Jones 会長エレクトは、ローターアクトの力をさらに高め、パートナーとしての関係を強固なものにすることを訴え、一例として、**会長代理の任務の最大10%を「資格を有する」ローターアクターに提供すること**、さらに、RIの「環境の保全計画グループ」の委員会にローターアクトのリーダーを4人選出し、ロータリアンのリーダー4人と共に重点分野の立ち上げを進めることを発表。
- 2022年2月 RI 審議会でローターアクターが代表議員となることを規定する件を撤回。
- 2022年4月 規定審議会において、ローターアクターをRI委員会委員に指名してもよい件(RI細則)及び、ローターアクターがロータリークラブの例会に出席できる件(RI細則)が採択された。さらに、ローターアクトの年齢制限を設ける制定案(40歳以下または30歳以下)はすべて否決された。

ローターアクトに関する 2022 年規定審議会の結果

- **制定案 22-16 (台湾提案)**
ローターアクターの年齢制限を設ける件
18～40 歳のローターアクターにより構成されるものとする。

審議結果：否決 (183 : 292)
- **制定案 22-17 (インド提案)**
ローターアクターの年齢制限を設ける件
30 歳以下の若い成人により構成されるものとする。

審議結果：否決 (212 : 268)
- **制定案 22-18 (理事会提案)**
ローターアクターが RI 委員会の委員となれることを明文化する件
ローターアクターがあらゆる RI 委員会に応募し、委員を務めることができるようにする。

審議結果：採択 (393 : 79)
- **制定案 22-63 (理事会提案)**
ローターアクトクラブが立法案と決議案を提案し、ローターアクターが投票権を有する審議会議員となることを許可する件

ローターアクトクラブが規定審議会に立法案を提出することを認めること、および、審議会においてローターアクターたちを代表して、34 人のローターアクターが投票権をもつローターアクト議員となれる。

撤回 (2022 年 2 月理事会で撤回)
- **制定案 22-84 (ドイツ提案)**
ローターアクターがロータリークラブの例会に出席することを許可する件
ローターアクターもロータリークラブやロータリークラブの衛星クラブの例会に出席できる。

審議結果：採択 (426:45)

セッション3 資料4

2022年規定審議会理事会提案制定案

制定案 22-71

クラブの管理の試験的プロジェクトについて規定する件

提案者：

RI 理事会

Merimbula ロータリークラブ（オーストラリア、第 9705 地区）

国際ロータリー細則を次のように改正する。

第 14 条 管理上の集団と管理上の地域単位

14.020. 監督

地理的に隣接する 2 つ以上の地区から成る区域内のクラブについて、ガバナーによる監督のほかに、他の監督方法を理事会が追加設定することができる。理事会が監督方法を設定する場合、理事会が手続規則を定めるものとし、この手続規則は、関係地区内クラブと国際大会の承認を得なければならない。

14.030. 試験プロジェクトを通じた監督

理事会は、影響を受けるすべての地区から承認を得ることを条件に、クラブを監督する方法として試験プロジェクトを創設できる。RIBI 内および／またはオーストラリアまたはニュージーランドを含むゾーン内にあるクラブのみを、試験プロジェクトに含むことができる。理事会は、下記のセクションに沿っていないこのような地区を対象としたガバナンスの規則と手続きを決定できる：

- (a) 7.020. および 7.030. (立法案の提案と承認)；
- (b) 8.030. および 8.040. (決議案の提案と承認)；
- (c) 15.020. - 15.060. (地区会合と地区資金)；および
- (d) 16.030. (ガバナーの任務)

(続く条項は、該当する番号に振り直す)

(本文終わり)

趣旨および効果

本制定案の目的は、理事会がロータリー世界の二つの地域における試験的取り組みを支援できるようにすることである。この取り組みは、以下の二つの地域の既存のクラブ、ロータリアン、ローターアクターを支援する革新的方法に焦点を当てる：

- 1) グレートブリテンおよびアイルランド
- 2) 現在ロータリーの第 8 ゾーンとして特定されているゾーンの一部である、ニュージーランド、オーストラリア、特定の太平洋諸国

ロータリー世界のほかの地域は、この試験的プログラムの一部とはならない。また、この

試験的取り組みはいかなる形でもクラブ構成に影響を与えるものではなく、より地域的な支援と地域的なガバナンス構成を導入するための新たな方法を試すこととなる。

いずれの地域も、試験的取り組みへの参加に関心を示している。これら二つの地域では、過去 10 年間に会員数が大幅に減少した。クラブの平均人数も大きく減少しているほか、会員の平均年齢は上昇し、これらの地域の地区の全体的な健全性が脅かされている。何も行動を起こさないことの代償は大きくなる。

本制定案は、社会が変化するペースと、テクノロジーが私たちの生活に与える影響の増加に適応していくための取り組みである。現在、世界的な組織は、より機敏に動き、リーダー層と草の根とがより直接的なつながりを持てるよう、そのほとんどが組織構造の階層を大きく減らしている。しかし、ロータリーの構造は、長年の間にボランティアの階層と役割が増えた結果、序列構造に膨らんでしまっている。

本制定案では、効率性を高め、会員へ提供するプログラム、提供物、ツールを地域化し、会員のリーダー職をより管理しやすく、実行しやすいものとするための新たな方法を模索する新たなモデルを試すこととなる。

財務上の影響

本制定案は RI に財務上の影響を及ぼす可能性があるが、現時点でその額を特定することはできない。かかる費用は、理事会がこの試験的プロジェクトをどのような形に構築するかにより左右されると思われる。オーストラリアとニュージーランドを含むゾーンにおける試験的取り組みの年間の初期費用は、約 110,000 米ドルである。経費には、より地域化した支援構造、テクノロジーの向上、一時的な職員の支援が含まれる。しかしながら、直接対面式研修の削減や新構造を支援する職員にかかる費用の削減で、一部相殺される可能性がある。

(審議結果) 採択 324 : 150

4 クラブを元気にしよう

クラブ活性化の必要性と手順



国際ロータリーという世界的ネットワーク組織の基本単位はそれぞれのクラブです。クラブ活性化はクラブが永続するための最重要課題です。居心地がよいだけのクラブから元気で活気に満ちたクラブに飛躍するには何が必要か考えましょう。

セッションの目標

- ▶ あなたのクラブの現状（強み・弱み）を真摯に分析する。
- ▶ クラブのビジョン・戦略計画づくりが元気なクラブにするための突破口になることを理解する。
- ▶ 元気で活気に満ちたクラブへの道筋を考える。

セッションの問い

- 1) なぜクラブ活性化（元気なクラブづくり）が必要なのでしょう？
「今居心地がよいクラブなのだから何もする必要がない」という考えの会員にどう応えますか？
- 2) あなたのクラブの強み（特長）は？ 逆に弱みは？（クラブの現状分析と把握）クラブの強み・弱みを測定・分析したことがありますか？
会員がクラブの現状をどのように考えているか、生の声（本音）を聞いたことがありますか？
→ 「会員満足度調査」（パートⅠセッション5 資料1：P25～27）、
「クラブの健康チェック」（パートⅡセッション6 資料2：P86～96）、
- 3) クラブのビジョン（10年以上先の地域社会におけるクラブのありたい姿）をみんなで話し合ったことがありますか？ それはなぜ必要なのでしょう？
あなたのクラブの理想のクラブ像、理想の会員像の要素を列挙してみてください。
- 4) クラブの現状と「理想像」のギャップを埋めてゆくには何が必要か考えましょう。
あなたのクラブを元気で活気のあるクラブにしてゆく重要優先課題は何ですか？
あなたはどのような具体的ステップでクラブ活性化を進めたいですか？
ビジョンを実現するための戦略計画（3～5年の行動計画）をつくってみましょう。
→ 「元気なクラブとなるためのステップ」（パートⅡセッション3 資料2：P61）
「戦略計画立案ガイド」（パートⅡセッション1 資料1：P38～44）

参考資料：「ビジョンレポート 2020 本編・資料編」

（日本のロータリー100周年 ビジョン策定委員会 編 2021年6月）

セッション4 資料

変化したい人は誰ですか？



